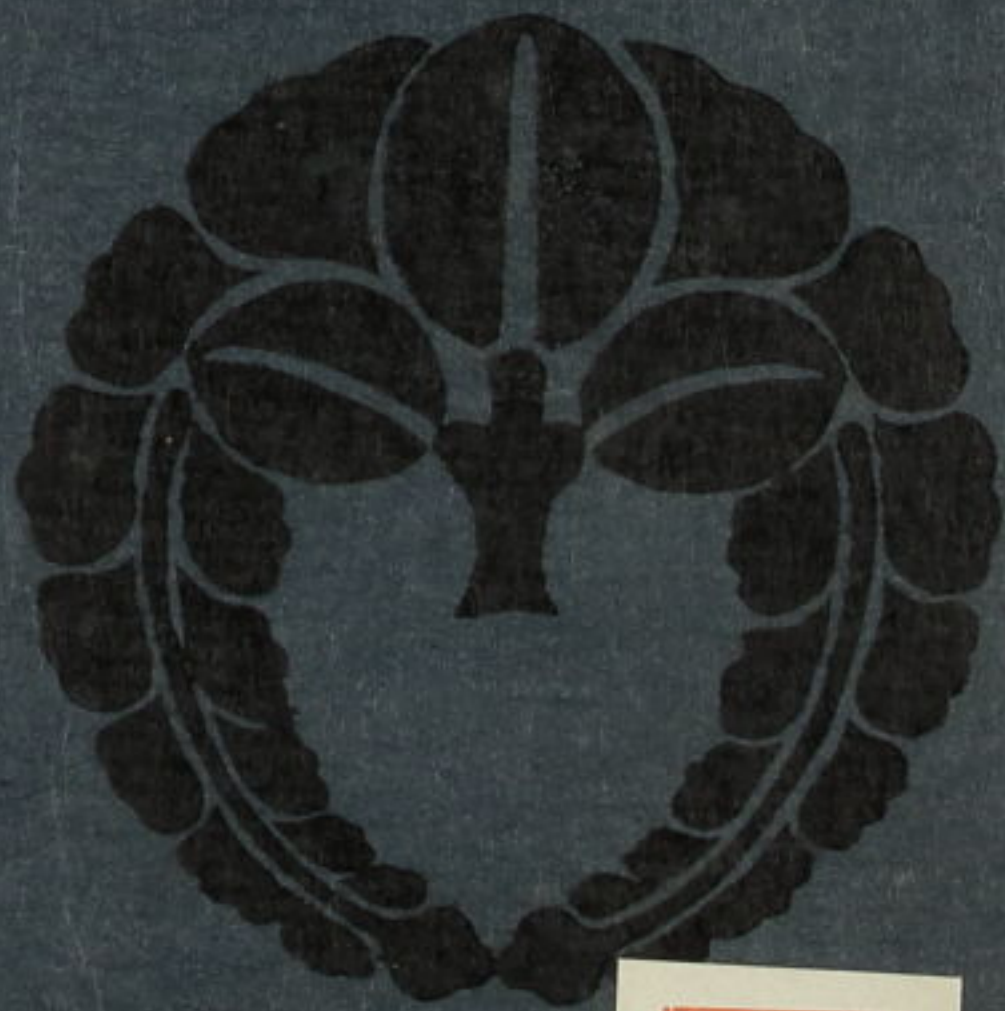




妙見
感應

清正真傳記

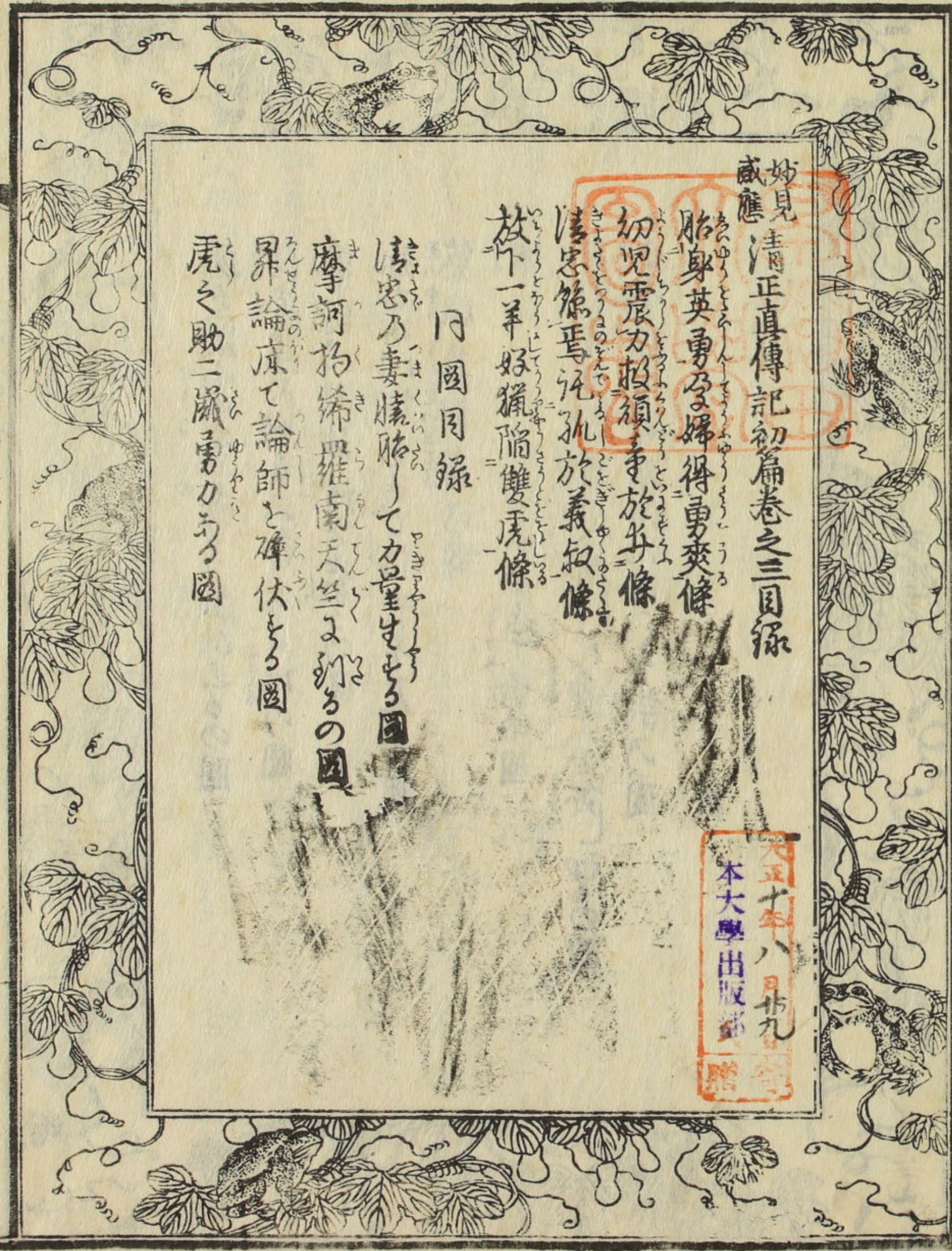
初篇
三



~ 13
3333
3



門 18
3333
卷



妙見 藏應 清正直傳記初篇卷之三目錄

胎身英勇及婦得勇爽條

幼兒震力投須手於舟條

法忠篤焉託孤於義叔條

故下羊好獵陷雙虎條

日國目錄

法忠乃妻懷胎て力量せざる圖

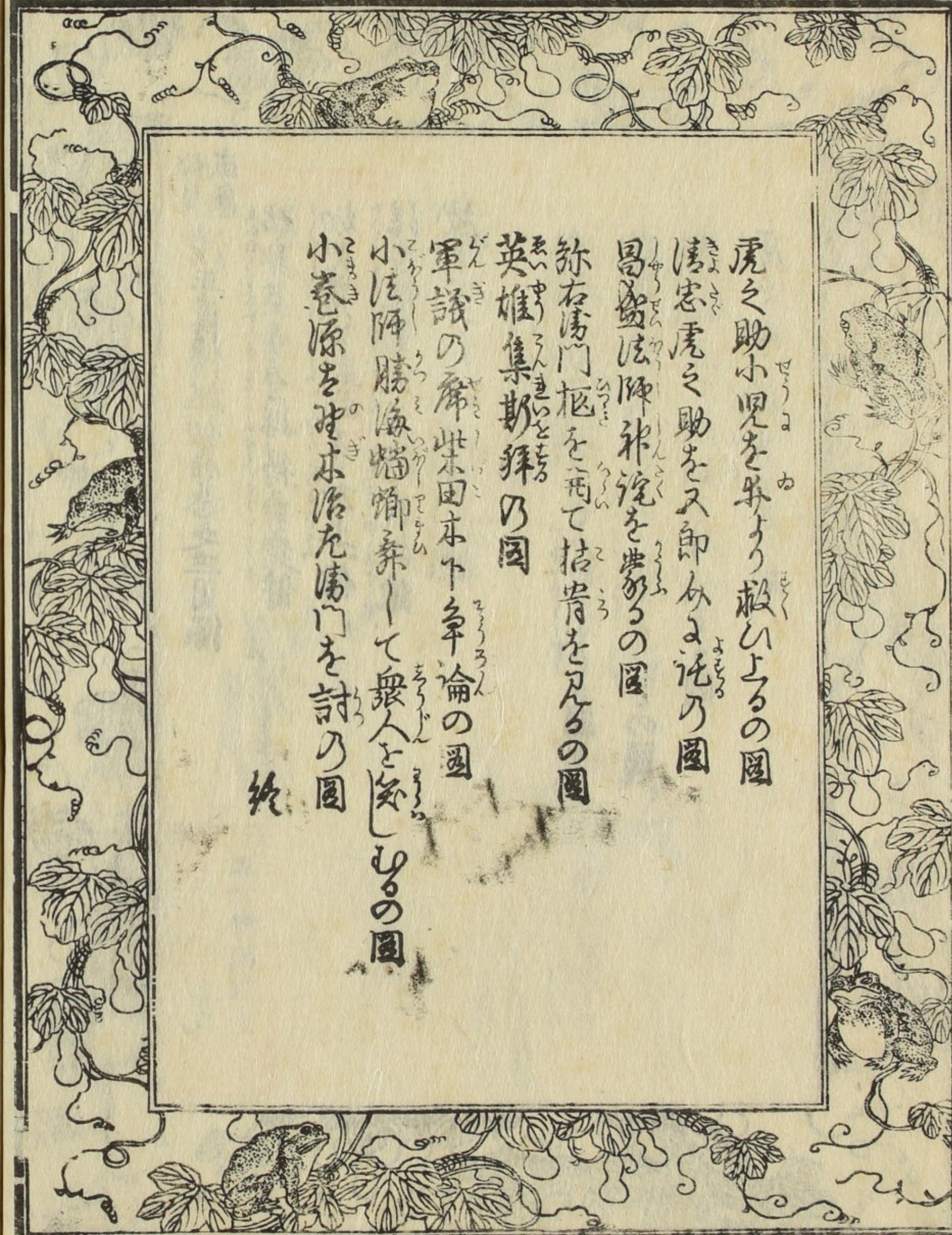
摩訶拘締羅南天竺又別々の圖

果論床て論師と碑伏する圖

虎之助二歳勇力ある圖

天正十年八月廿九日
本大學出版部

清正直傳記初篇卷之三



虎之助小児を舟より救ひよるの圖

清忠虎之助を又即めん託乃圖

昌高法師神託を告ぐるの圖

赤石湯門柵を而て拮背をみるの圖

英雄集斯拜の圖

軍議の席柴田本下卒論の圖

小法師勝海船備弄して衆人と交ひの圖

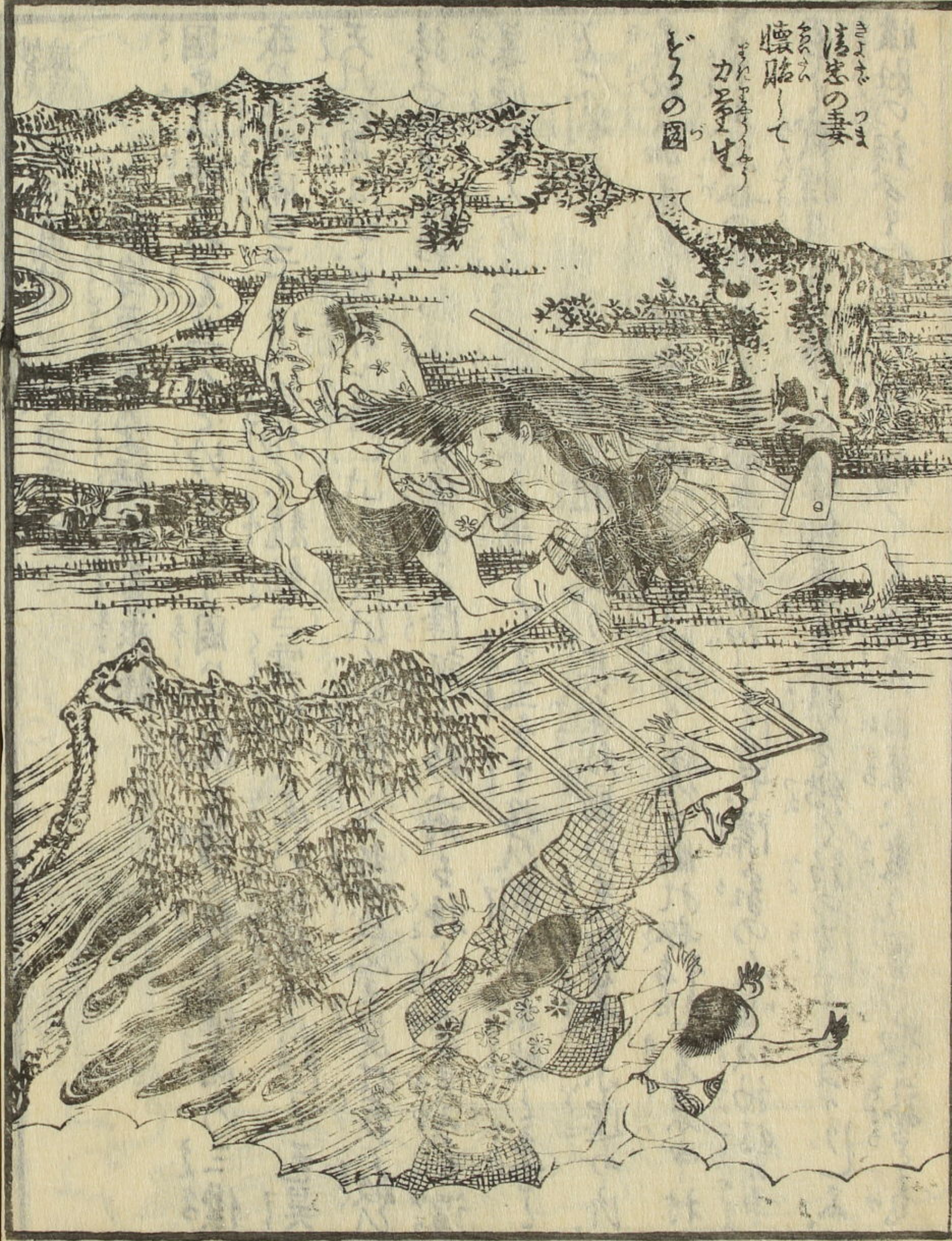
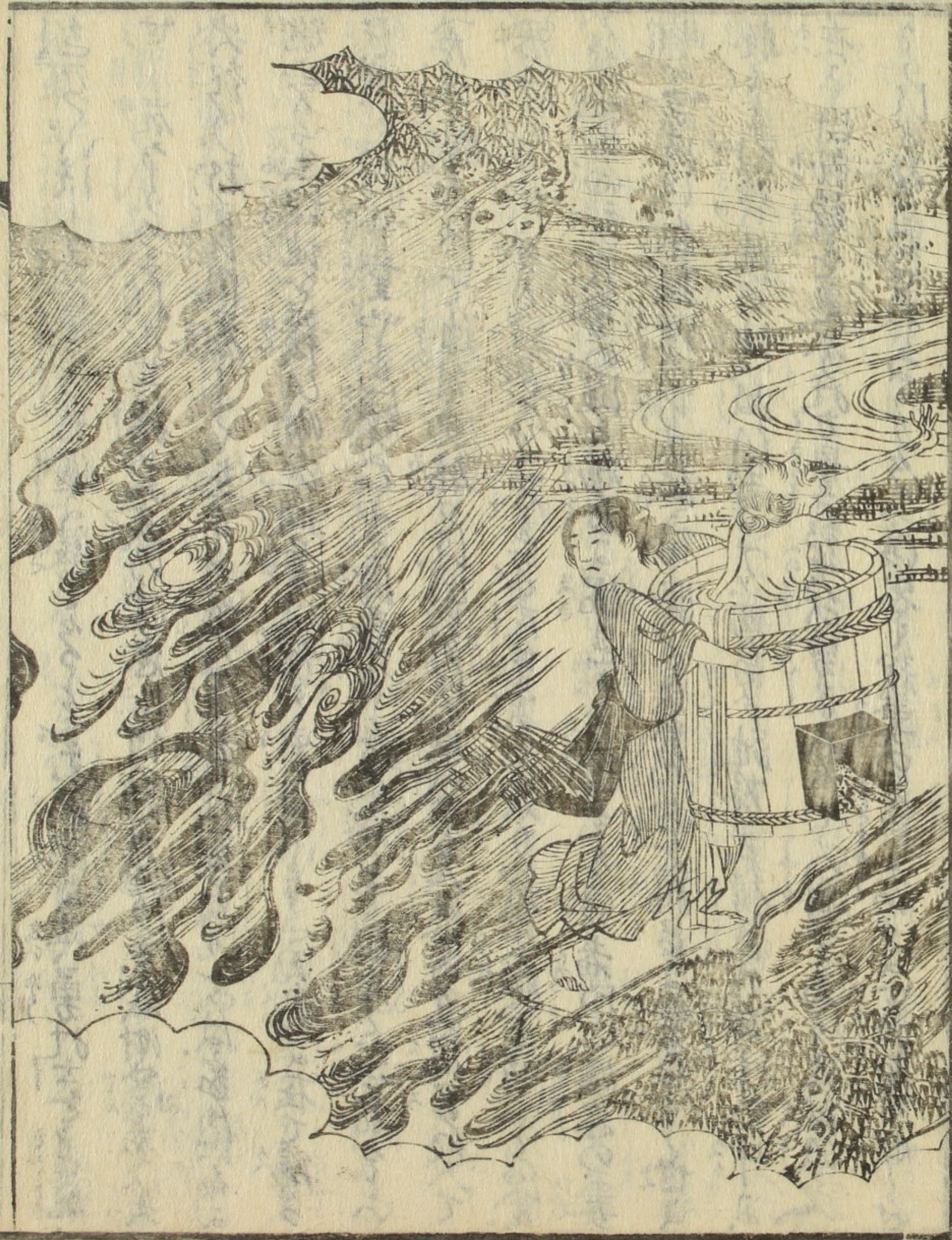
小巻源を中本治丸湯門を討つ圖

終

妙見 清正真傳記初篇卷之三

胎身英勇母婦得勇爽條

國家の興るや先其人を以てあり國は十亂と得て紀元漢高の三傑
 或は陵煙園の二十は人皆死す龍動き雲起り虎豹風後より曰く是吳
 天れ功用はして鬼神と降けいふはけ人と後より物部氏塗山灰れ若く救ひ
 終る者や後や和漢元高傑世に降誕し終る附き種々の靈異あり不謂
 姜源の夫人の臨産時で孕み果して文王を生終ひ劉氏に赤龍とあると
 凡そ劉邦とて畢く漢と紀終る其後我國の先蹤多る小遣の次
 義初に加茂虎之助出生の時一ツ乃奇瑞あり虎之助れ母を元東中村
 又生と父母の側より人々温柔と物知りて隣家の人喧反初れ言争
 志ても我慄れみ心弱く風姿細靡又又結を結ぐ程の力ふしなかりしふ
 懐妊の程も何とぞ程心極く立振舞同春に愛り曾て物と驚くも



三言七行巻三

三

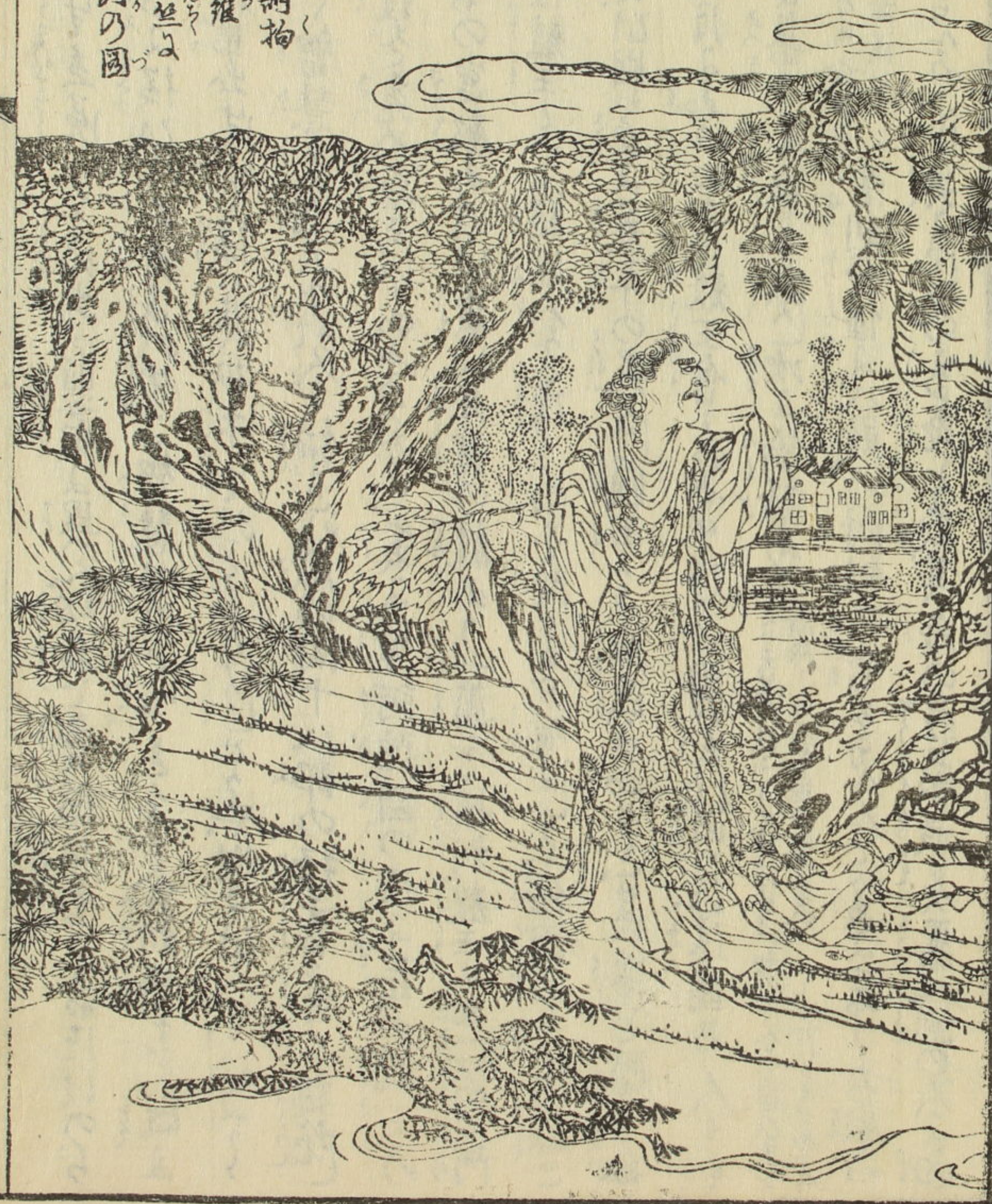
多きく、いほり力量も普通も勝り多しと。是胎中も其勇れ士と。龍
 せし花やうめされ其始りまの信忠も行の心付りしが。或時隣家
 火起り、お長風厳しく在中大抵の業草其家たひしは。家内二母
 姥よりま煙地と覆ひ耐夕間書に徳も男子はいま。田舎に在て帰ら
 ば隣家れ女童やま焼くよと周章し。我先火を消んと近着るとい
 へた。火を燃んはして近付り徳りけ。けかたに盲人の老母あり。思召に入て
 居りしが。火のつとばかえと思も。たきまのきり。我を救へと叫ぶとい。火
 人の業草向夜火勢の遶る物も。泥まこ。更まをば。若はし。信忠の妻
 幽ま。安はけ。忽猛煙の中。近入甲斐く。後老女を思召も。客なぐり。世ま
 難くと。引携り。遠の地へ。救ひ出り。り。田舎に弛降る。健民た。崩し。き中。又
 在り。け。勅解を見。今れ。力量。弱女の男。入人。七人。掛り。あり。た。徳。及。之。
 う。ら。び。と。驚。歎。せ。ぬ。ら。う。り。り。信。忠。も。我。妻。の。力。量。何。ら。よ。一。度。の。奇。懐。と。せ

一かども信思のめぐる。は。人。の。討。ら。ざる。危。難。も。徳。む。れ。の。事。の。急。わ。り。
 又。より。早。業。力。量。思。つ。た。後。と。る。物。り。た。其。を。さ。ぬ。と。ば。又。え。の。ま。く。
 弱。り。り。り。我。妻。殺。年。旧。に。在。て。さ。い。力。量。あ。る。は。は。然。る。小。人。の
 目。を。移。り。た。振。舞。し。れ。あ。る。り。は。と。巨。石。俵。物。人。の。容易。勅。解。り。徳
 へ。る。物。を。試。ま。し。搦。げ。さ。し。り。り。射。拾。り。蹴。を。飛。と。ぐ。り。果。して。来。来。の
 あり。状。に。も。他。の。妻。も。我。さ。ぐ。り。奇。き。り。に。思。ひ。我。身。は。天。魔。破。向。れ。智
 あり。や。然。り。附。離。の。不。あ。り。る。然。れ。く。知。識。の。人。も。弱。り。る。と。種。々
 使。ゆ。り。よ。も。信。忠。も。不。審。と。な。れ。り。平。日。の。敬。と。る。博。覧。の。律。儀。あり
 一。つ。い。一。ぬ。ひ。を。と。信。じ。我。妻。生。得。柔。弱。の。瓦。多。かり。け。以。率。又。力。量
 生。じ。勇。気。内。に。依。り。り。物。を。移。り。く。瓦。を。なく。自。然。鬼。神。の。あ。り。と。徳。し
 と。勝。中。り。上。人。り。く。博。く。受。び。後。へ。上。古。か。斯。る。例。も。あ。り。り。や。希。く。も
 我。輩。又。流。論。と。疑。滞。と。時。終。と。中。に。ぞ。律。儀。因。由。断。決。く。ま。く。善。へ

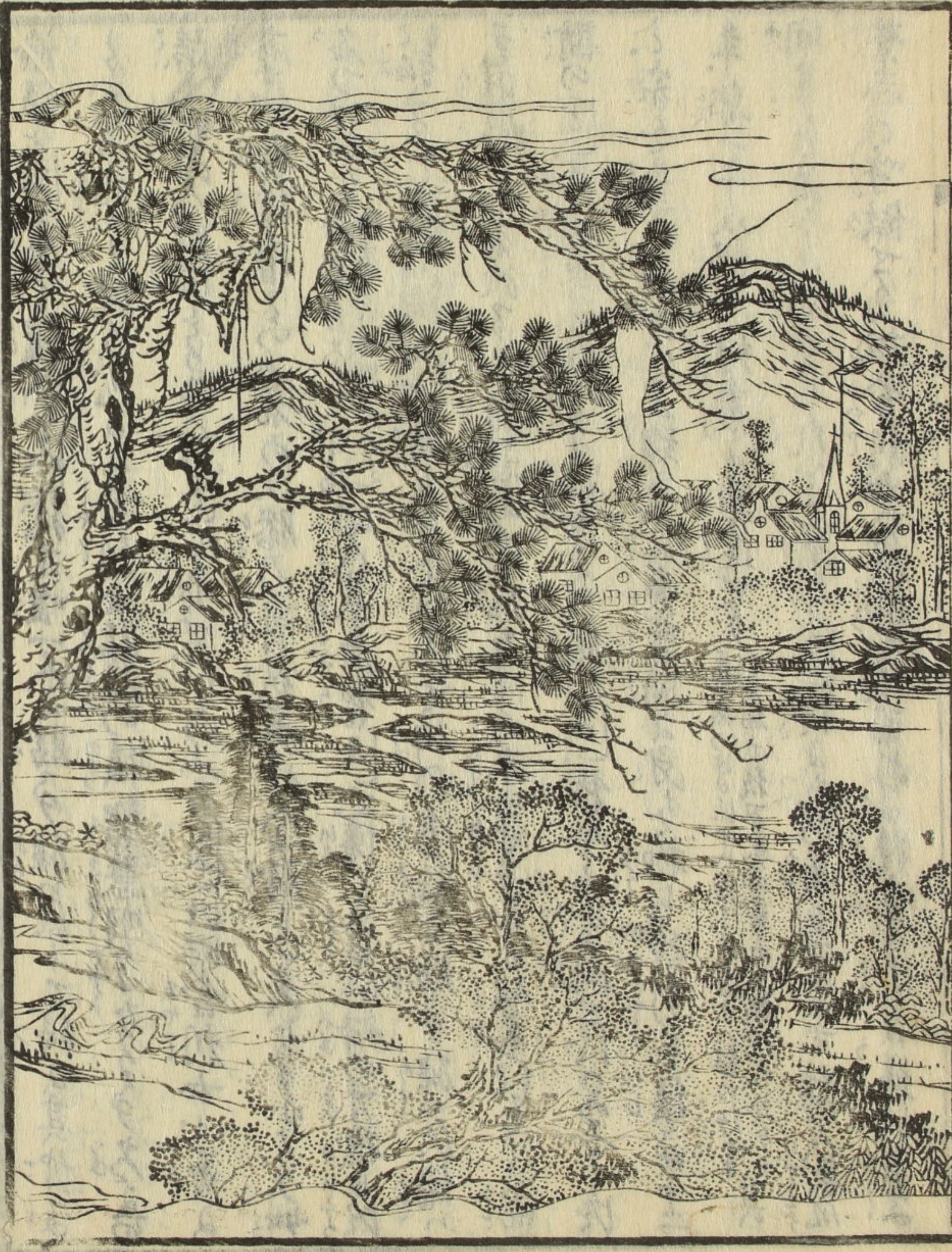
多の若くは婦人懐妊なりて或は信忠様を托す。我妻母をてより既又入
 有之其後いほして知り終ふぞ。律儀の云然らば免めて其胎之は胎中に寄
 てる不れ。権者の化身にせよ。佛菩薩の再来にせよ。胎に此有徳の後
 て妊婦の同母の幼いとまぐに産り。奇異の瑞相多き事あり。愚按。小
 其又出せ。妊婦の男よりて。成人の後。は武勇力量天下に雙た。勇
 名に海又空へ登るを後代に傳ふ。斯る例こそ傳ふ。佛菩薩三伽陀園
 又一人の論師。論師といふ。あり。其名を提舎と稱せ。婦と舍利女と号し。
 即懐妊せり。或夜爰に金の甲冑と表す大人あり。自ら金剛の拵と視
 て。天下諸の山は向ひ被拵をて突摧くに。諸山悉く摧破と云ふは
 我ら小つれ大山より拵とあけて摧くといふ又摧けは大人に就と
 表て側より入る。爰て後提舎は信。提舎の云はが生石の子
 男より成仁せば。徳明觀智天下に雙者なり。天下一切の諸論師と

論後をば。悉く摧伏と云。我唯一人は勝り。然りて。終其分る
 と云べき兆と云ふ。然るは舍利女胎胎の後智慧明了なり。若くは
 陪。世人の論と云ふ。つして希世のつは。け時舍利女が身と
 摩訶拘絺羅といふ者あり。膝乃背骨をたは。勝とて大なる小なり。如
 名つけり。摩訶は。大なる。言。拘絺人甚多。智は。博く。學び。婦の才機。日
 に。進るを。ん。試は。論と云ふ。つして。婦の多論。勝り。然り。信。備
 乞。胎胎せる不れ。大智慧あるが。胎なり。未出生せざる。以。若くは。高
 斯の。若くは。長。然と云。抽出る。多。疑。は。我。今。今。受。問。世。に。あ。る。は
 と。家。を。棄。て。南。天。竺。又。趨。き。益。夜。學。問。の。身。を。抛。り。後。身。を。獲。り。十
 年。都。て。十。八。部。の。經。書。を。通。達。せ。り。天竺國の學。十八部。の。經。書。と。十八部。の。經。書。
 問。書。を。見る。又。眼。を。く。凡。と。も。若。く。は。り。後。又。凡。の。長。二。尺。二。寸。肘。の。人。長。凡
 梵。志。と。呼。做。せ。り。叔。舍。利。女。の。月。滿。て。生。不。れ。提。舎。が。言。は。遠。に。男。子

摩訶拘
締羅
南天竺
列の國



吉正記の巻之三



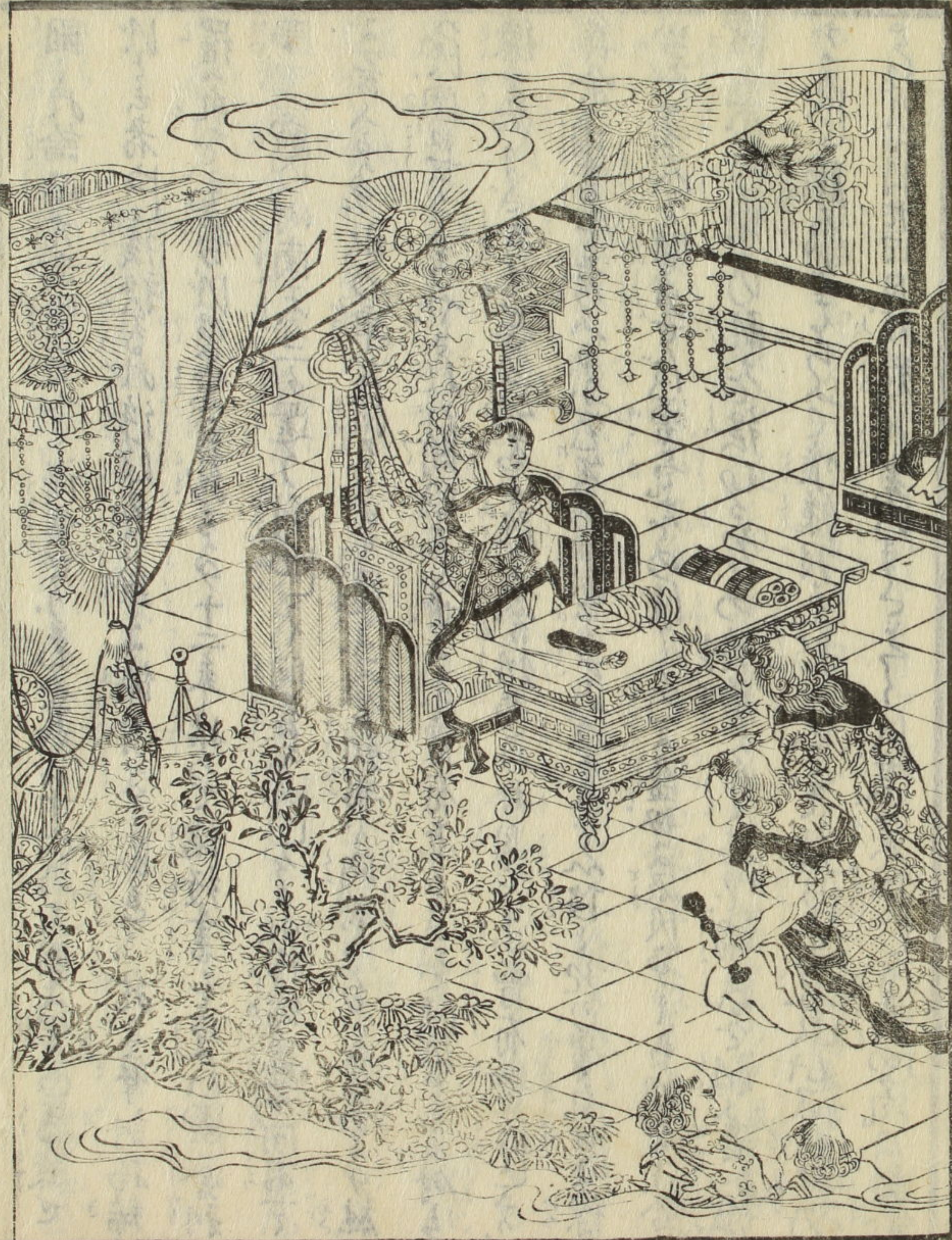
吉正記の巻之三

三

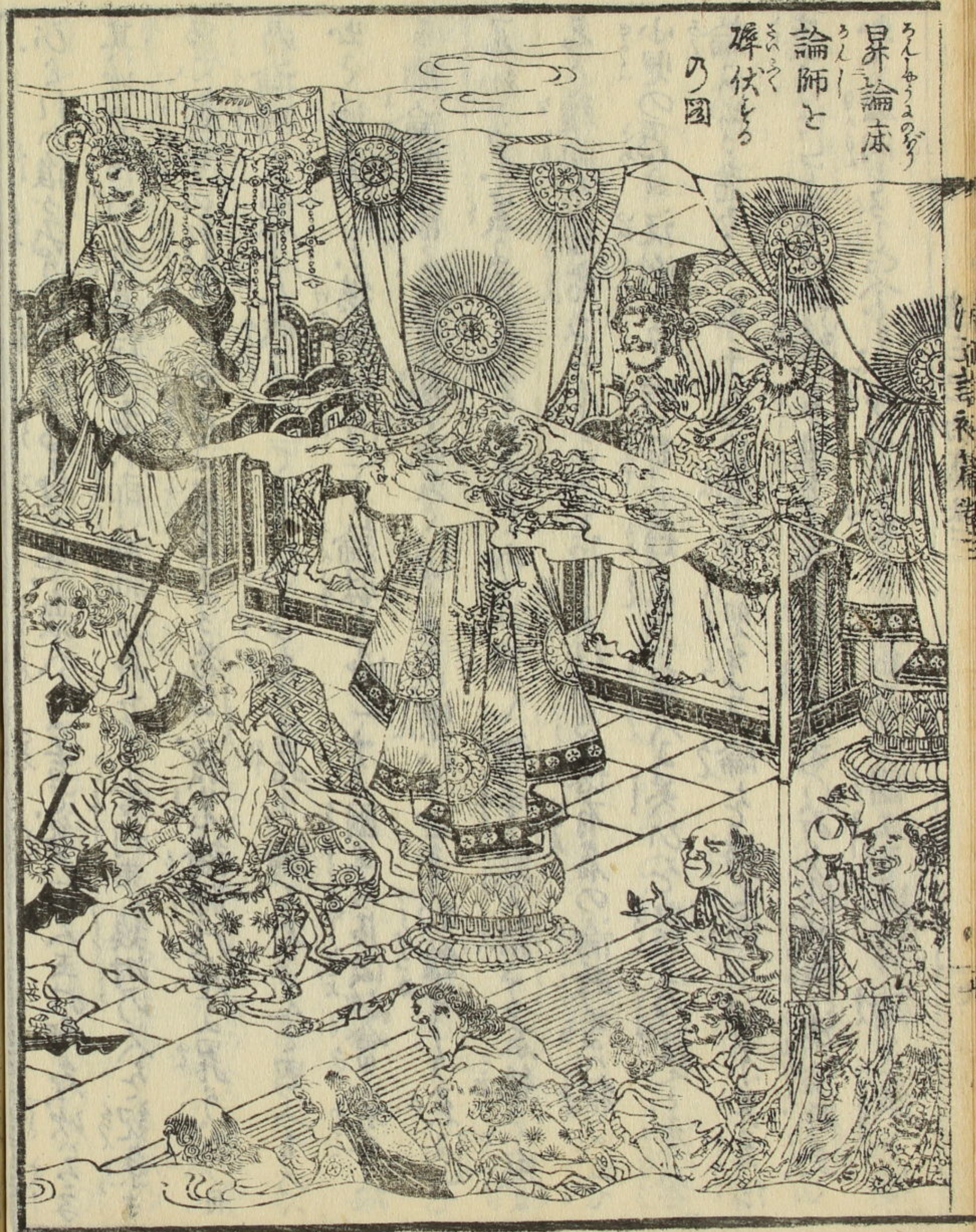
又生立漢しく、易名、の眼安ん異之、初名と、惠婆提舍と名はけのら
 釈る、又後ハ十大弟子ハ中ハ智慧第一と、呼ぶ、舍利弗也、既ハ
 舍利弗出仕して、後ハ其母奉生れ、くちり、と、や、附ハけ人、生れ、くちり
 少ク智慧多同天下、れ人ハ、初ハ八歳ハ附十八部ハ經書悉ク熟読
 其理を究め盡さ、び、の、あ、り、く、又ハ摩訶陀國ハ内ハ若シ龍王ハ
 住マノ宮殿あり、け、裏ハ見牙ハ龍あり、一箇を、結利龍王と云、一箇ハ阿
 伽羅龍王と云、彼國人を、護リ、雨を降、と、順ハ、く、化國凶年ハ、檢、と
 以テ、け、國ハ、又ハ荒年ハ、患ハ、國王より、庶民ハ、と、其ハ、徳と感、と、毎
 年二月ハ、む、り、ぬ、龍王會と云、の、あり、一國ハ、去、ハ、及、ハ、遠國ハ、人、く、と、
 客ハ、集、り、喜樂を、慶、次ハ、論議あり、此ハ天竺ハ法、ハ、博、多、智、の、人、を、集、ひ、て、
論議、と、ハ、我、國ハ、儒、生、の、く、と、れ、ハ、カ、ル、を、云、
 舍利弗、僅ハ八歳ハ、附、彼、大會ハ、刀、人、と、客ハ、来、り、大、殿ハ
 内ハ、見る、小、中央ハ、に、ツ、の、座、と、後、其、座ハ、莊嚴、最、最、羅、之、側ハ、人、ハ、向

此、これハ、誰、ガ、為、シ、設、く、座、也、や、衆、人、と、言、テ、第一ハ大王ハ御座、次ハ太子
 其次ハ大臣ハ座、等、比ハ座、即、論師ハ座、なり、舍利弗、熟、附、人ハを、親、察、す
 る、小、智、量ハ、初、一人、と、して、已ハ勝、と、ある、者、ハ、我先、論師ハ座ハ、昇、り、今、日
 ノ論師ト、あ、下、ト、憊、と、して、等、比ハ座ハ、昇、り、論、を、な、え、と、思、ふ、り、の、ハ
 出、く、同、心、と、結、跏、趺、座、と、論、休、ハ、座、と、云、國王ハ大臣ハ、會、ハ、を、な、り、た
 る、諸、論師、皆、ク、大、き、な、聲、と、な、り、に、中、々、ハ、深、い、ま、と、年、初、雅、と、り、是、ハ、して
 不、知、カ、リ、ク、客ハ、昇、り、く、ち、り、と、の、有、り、や、く、智、量、衆、ハ、初、ハ、右、慈、と、擬、と
 又、く、難、問、を、結、者、と、ら、ん、と、の、み、り、り、され、た、る、徳、有、名ハ、論師、多、ハ、釋、と、出、て
 小、兒ハ、の、み、ハ、流、例、さ、り、付、却、テ、釋、系、乃、衆、人、ハ、笑、ハ、を、蒙、り、乃、理、之、と、乘、忽、
 論、ハ、出、る、者、多、ク、年、十、五、ハ、六、歳、と、ノ、小、兒、を、論、を、傳、て、問、ハ、む、小、其、言、後
 堂、と、して、衆、ハ、詭、論、多、識、と、る、世、乃、及、ぶ、亦、ハ、あ、り、け、後ハ、諸、論師、多、ク
 出、く、難、問、と、ら、ん、と、一、を、を、希、と、る、者、多、ク、國王、を、以、て、論、ハ、衆、ハ、傳

吉正尼女高家三



らんやうまのぢ
昇論床
論師と
碑伏と
の図



の図

國に論師大未曾有と嘆嘆せり。其の其名十六の大國に等き多敷也
此と云者は後釈多し此にあり畢に佛身より出たり。就其摩訶栴
羅の凡を多勞び受容は茲るの十二年始て諸經書を學ひ過(舍利
弗十二歲の時南天竺に還り。對面して問答をば)るふ。栴羅栴羅
と云ふるも。水乃車に張るふも速ふ。又舍利弗が問不一のり。答ふも能
く。問にせりとうや。されば斯のどく世に未曾有なるを懐ぬも。時
徳光いまだ出生せざる以前に舍利弗乃母自ら未曾有知をばせり。
其餘諸書を考ふるも。是等の例余多あり。爰をば按と兒の勇氣世に傑
出する人を勝るせば勇氣をのばり。内は盈母及び母もみり。今
我國の時天下の私を強むるもの英勇を生ずる。諸民を救ふ者
か。此に膠氣をとりて唯絲月を結ばんとぞ。信ふも。又けり。出生の
とれ。六月廿二日戌時月先いまだと。其甚く國に。其の勇氣は傑

とれ。其乃上行とく。明じて。外より。凡の付いさる。火のり。此に。近き
何より。その還て。志ざり。か。も。遠き。なる。を。見。付。報。治。法。を。諸。家。火
ふ。と。く。疑。く。強。勅。近。着。る。者。も。多。う。き。往。若。宋。の。右。祖。皇。帝
を。諸。匡。亂。と。い。ふ。時。赤。瓦。屋。と。い。ま。て。外。公。孫。と。い。ふ。火。の。と。く。い。は。ん。と。い
果して匡亂成長の後武勇智謀天下に雙者たり。後又代十國の
私を治め大宋の世に配(る者若くは斯斗の奇瑞あるよ)り。出生の、ら
虎之血の容與肯格。格格の孩兒といは。う。ふ。ふ。う。信。忠。心。中。大。に。教。び
已。こ。そ。發。疾。と。い。ふ。民間に格果のたけ。天。命。憑。あり。天。降。家。系。再。真。と。い。ふ。
人物をこそ。此れと。掌中此玉のどくは。仁を結ば。か。保。て。家。を
を。死。以。人。傑。と。ぞ。あ。う。い。ら。う。

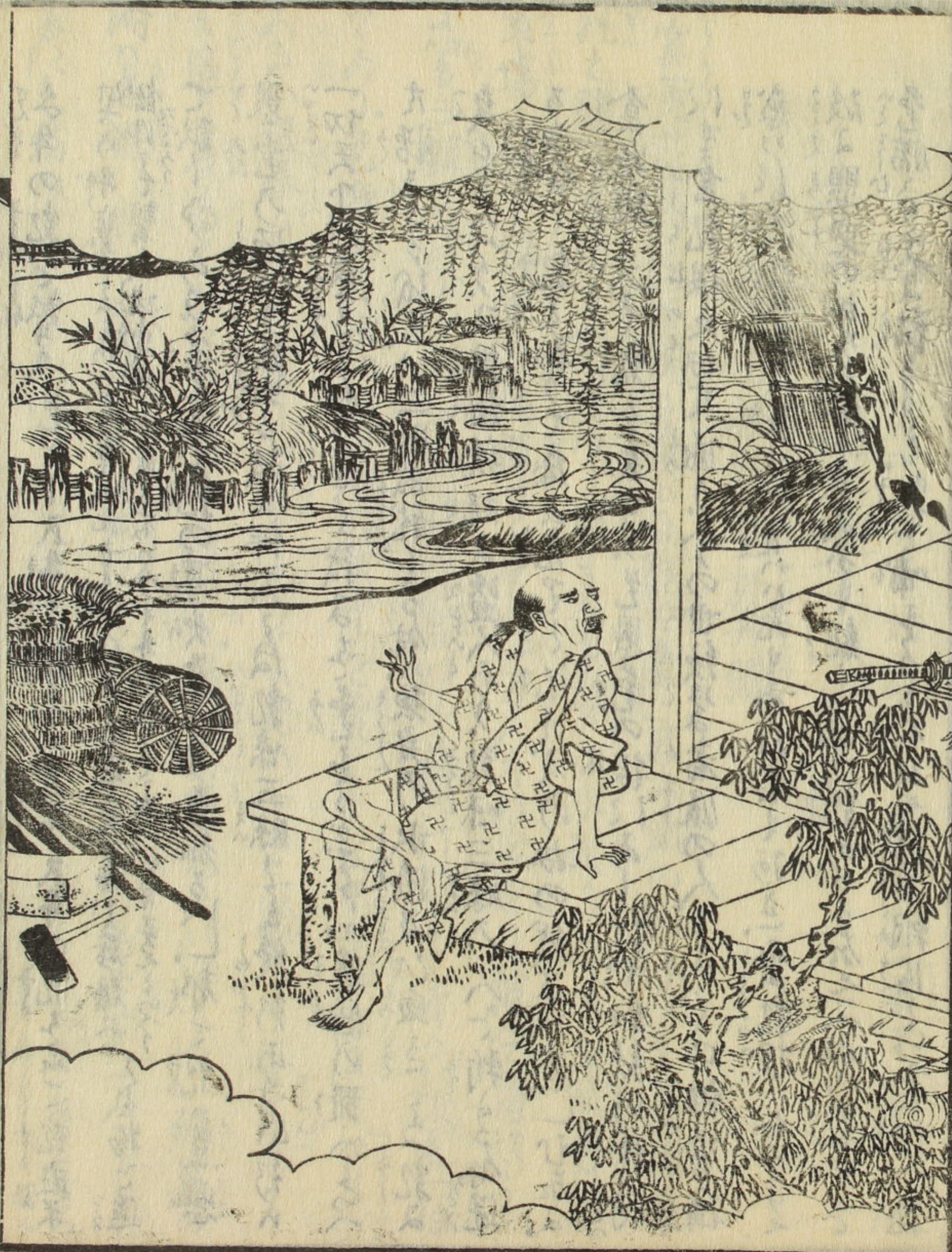
嬰兒不辨乳養就穀食條

初雅はして。姐豆と陳の乳客と。後る人。長。と。小。及。んで。大。聖。の。稱。と。呼。ぶ。

嘉傑乳内は具ある者其不為異ある不あり。されば虎之肋へも襍傑
 の裏より精心を骨地へ透しうらざる不あり。余は嬰孩のとき、嘗て啼哭
 づるもなく、其母が肘に過て地へ枕墜し、うらや二三回も及ぶると乳を吐く
 りや、割(文肉少)の傷ふも付らぬ乳房をみる所、飽ると飲乳後
 後、朝の露をみるをほく笑ひ、活るが如く。二歳の時、母が乳を三歳の小児より
 遙く大體はして、いま二年に、誕辰の日を俟て、記て歩むる三回斗が、襍傑
 危きもなく、又二歳に、うらや秋の物、信忠院、母は、小き乳草二三十
 球を、集めて、よよと、指を、して、拾て、後、一日の用、は、七ツ、八ツ、及び、比隣、若
 毛を見て、驚う、は、と、ま、る、は、三歳の時、分嘗て、乳房を、啣む、は、飲、む、或、人
 の、ふ、次、く、乳、哺、して、育、る、所、は、極、つ、て、鹵、絶、之、又、初、雅、の、時、乳、汁、を、飲、む、は、け
 ば、長、壽、と、ま、り、あ、り、信、忠、は、て、乳、を、放、り、穀、食、を、用、ひ、て、長、育、と、ま
 し、鹵、絶、は、して、長、命、せ、ん、か、い、男、は、して、長、命、を、り、の、遙、く、増、ち、り、め、と、毛、朝、暮

飯を、と、り、小、世、間、六、七、歳、の、児、童、を、も、尚、多、く、吃、す。若、猶、國、の、廉、頗、と、英、勇
 遠、道、を、震、ひ、齡、六、十、を、暨、ぶ、と、二、日、又、一、斗、の、飯、を、食、し、十、斤、の、肉、を、食、す、は、(此)
 う、は、隣、國、敵、を、破、り、虎、を、射、し、勇、氣、人、成、食、も、又、廉、頗、又、信、] 後、世、未、と
 蒼、く、若、大、食、て、竹、の、葉、を、た、そ、食、と、同、し、て、勇、を、同、せ、さ、る。天、地、縣、隔、の
 差、遠、行、旅、痛、き、う、た、り、り

乳、汁、は、こ、ん、甘、菜、の、と、取、り、り。天、竺、國、は、甘、菜、物、の、主、と、又、乳、糖、の、次、に
 熟、酥、を、り、次、に、生、酥、を、り、次、に、破、次、の、蘇、乳、糖、の、ど、れ、は、甘、菜、の、旁、と、り
 と、り、り、の、之、破、破、破、熟、酥、生、酥、破、蘇、乳、糖、と、り、の、り、と、二、年、の、乳、之、西、靈
 の、諸、國、多、く、牝、牛、と、飼、ひ、其、乳、を、擊、き、少、く、蒸、じて、破、の、ど、れ、は、蘇、乳、と
 名、く、又、之、と、蘇、菜、と、混、合、の、ど、れ、は、蘇、乳、の、り、を、破、と、ま、り、其、と、製
 して、生、酥、と、ま、り、と、製、して、熟、酥、と、ま、り、其、後、細、製、して、破、と、ま、り、蘇、乳、と
 蘇、糖、と、製、し、次、に、生、酥、を、細、製、して、氷、砂、糖、と、ま、り、(此) 然、る、所、の、乳、は
 り、と、甘、菜、の、主、格、な、り、り、の、之、佛、本、の、經、は、若、生、村、主、の、女、が、蘇、糖、を、製、す、に

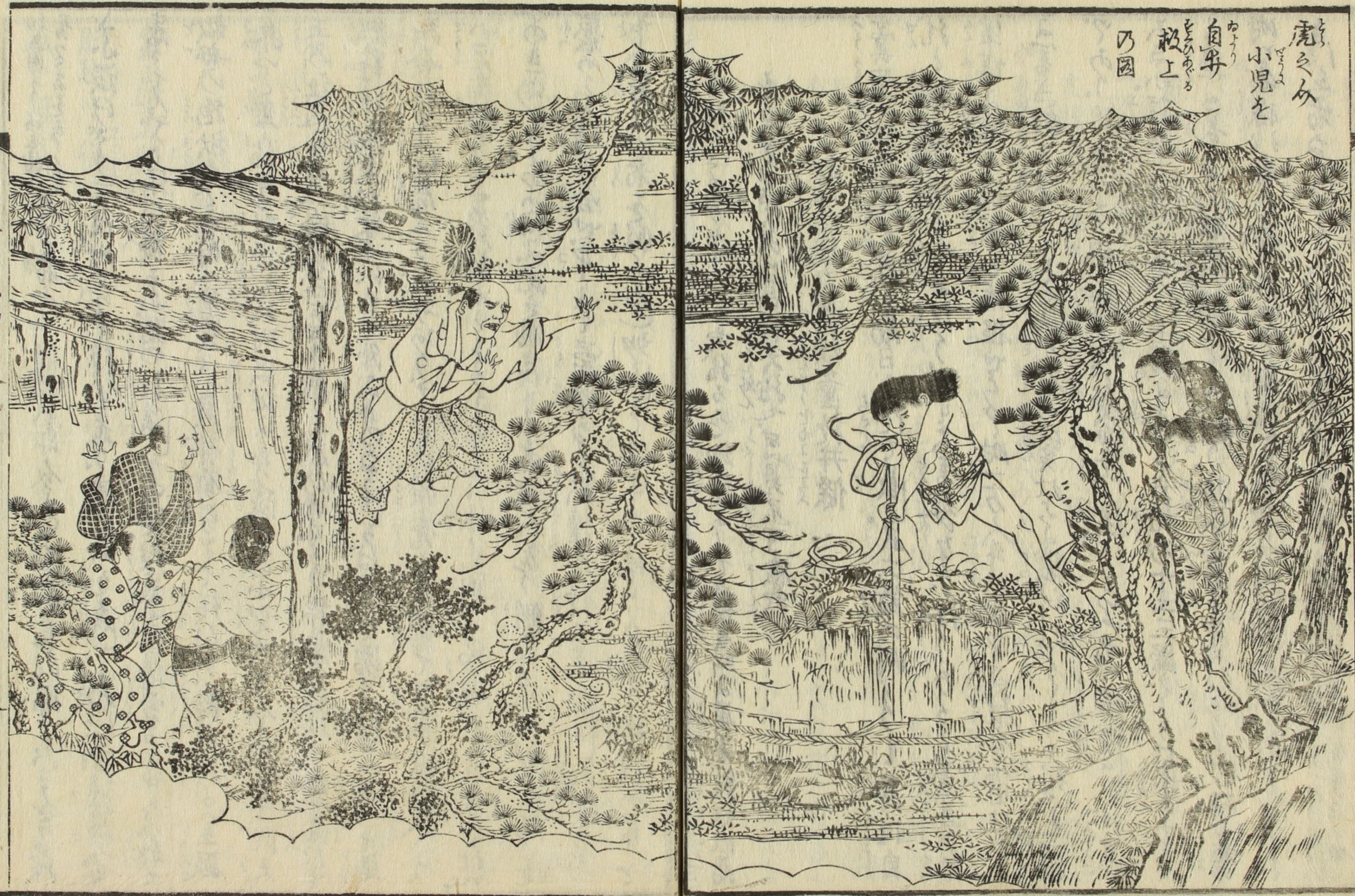


清正記力篇卷三



虎之介
二歳勇力
ありて因

清正記力篇卷三



虎之小兒を
自舟
救上
乃國

清正日記力篇卷三

清正日記力篇卷三

十三

十三

幼き時より怪を備ふ者あり。被治及即女とく者の家へ嫁し、いふとて我
 不汲けりしりば、附く中村に來り、虎之助を誘はせり。これに誘はれ
 來りてんやと誘ひ降る小路の夜遠しとて、往來又は倦勞するを、附て
 叔母の抱袂などあり、甲斐く、後背負勞して、後い幼齡乃預る。是振
 弄て、幸儀なる取換へ、或時彼地より、隣裏の小兒六七人、たふ年既天
 王の社内より、金巻を志し、戯を拵ひりて、神廟の邊へ、先個なる
 郊野神樹老松を、いみて外より、のまじりば、夜を潜り、林を旋りて、追
 近合社中に、荒ら右舟、十二三の隙、虎を重過つて、荒果に墜入る。
 小兒た叱て、さうせぬ、敵んととも、小舟を、泳ぐ。側は、釣籠も、あつて、
 あまよくと、いふ、向ふ、虎之助、其ま、赤裸の、身、側なる、小兒、多し、
 聚めて、縛き、合せ、中より、豪勢なる、獸、僅を、俵に、ま、
 中へ、容て、い、者を、解ふ、途、如く、抱よと、誘はる、隙を、隙、俵の、帯と

以て、被、額、臺が、肘中を、紫と、縛り、其、状、恰も、猪州和尚が、額を、捕へたるが
 ごとく、狩くと、舟、中、に、釣、抄、り、せ、ば、兩、臺、中、に、嚴、密、纏、合、揚、よ、と、
 する、付、唯と、云て、滿、西、忽、と、觸、も、兩、の、肘、に、力、肉、堅、く、し、て、旋、集、り、
 ち、く、兩、人、を、舟、より、と、し、標、と、す。智、と、い、ひ、力、量、と、い、ひ、九、丈、の、業、と、は
 見へ、り、き、農、夫、老、婆、も、斯、と、い、ふ、り、追、く、は、近、來、り、虎、之、助、が、今、の、
 幼、穉、と、見、る、者、此、の、七、歳、兒、の、形、に、あ、り、は、長、の、後、行、たる、荒、場、と、
 若、い、あ、ま、き、や、と、舌、分、吐、て、ぞ、驚、き、さ、る。叔、母、り、より、又、即、女、も、歡、喜、の、
 中、に、驚、き、さ、る。

法忠錄要託孤放義叔條

爰に、加、辰、緝、正、元、清、門、法、忠、の、懐、づ、外、藤、武、が、胡、狄、の、一、足、よ、り、あ、り、
 脚、歩、心、は、後、づ、る、あ、り、て、後、尾、張、中、村、に、を、執、監、し、被、工、法、を、清、が、家、
 職、を、繼、ぐ、い、法、を、清、と、名、と、龍、を、い、一、子、虎、之、助、塩、車、丸、群、と、脱、と、入、三、
 三、



信忠
虎之介と
五郎
乃圖

清正記功篇三



清正記功篇三

麟兒の擡のるを以て朝暮成長の期を俟天啓權衡此柄を乞き君り
 が文明后と撰んで仕官させしものと。梓弓春よ秋よと歳次ふれて徒
 ら承祿十二年とぞありに多。猶三月と旬か風を起し。若くは
 是へこれの醫藤多の重ととの入。病心腹に入。既世の中に在るは。此
 と。津海なる又即女夫婦を呼ぶ。妻とた。枕の傍に拓き。多の
 正に死んとする時。嗚呼長く。人正に死んとする時。若言後以と中せば。
 秋く我を不用いひ。我家り。民間に混同と。き京國にあり。此と
 丸中石はして。兼微く。適親又因。機身信。廣く。るを具。され。り。我
 まりて再び。雲。落。け。り。は。ぬ。り。ま。り。幸。我。子。虎。之。助。姓。乃。の。同。り。
 奇。瑞。あり。出。生。れ。後。も。心。と。ま。思。考。は。の。り。成。長。後。果。て。ま。如。風。を。震。い
 記。し。た。猶。た。ま。り。十。歳。は。後。比。我。目。を。閉。ぎ。り。は。叔。母。治。承。の。方。は。是。由。り。
 夫婦心を閉し。十一二歳と。養育。し。り。當。國。の。ま。小。回。信。長。朝。臣。と。

お今に雙のき名。おれ。に。海。の。私。を。務。め。万。民。塗。炭。の。苦。と。を。救。ひ。給。ふ
 べき人。表。あり。と。見。識。る。き。人。皆。嘆。息。せ。ば。と。の。り。は。行。は。せ。て。け。君。は。使。
 させ。一。郡。一。城。此。を。も。り。は。我。其。泉。の。ゆ。に。み。て。珠。と。啼。き。妻。を。結。び。て。り
 存。恩。を。報。じ。と。幸。な。彼。家。當。時。の。利。人。本。下。後。者。即。の。妻。の。叔。母。河
 希。の。お。女。兄。ま。り。ん。ぶ。る。虎。之。助。が。あ。め。に。し。外。戚。の。伯。母。本。下。氏。也
 他。門。の。ど。く。あ。は。せ。ら。ま。ほ。切。雅。の。時。か。武。門。の。石。他。を。見。習。り。は。る。日。く。り
 一。年。た。り。九。早。く。彼。家。に。出。り。並。給。り。と。異。く。と。後。の。り。は。遠。法。に。又
 虎。之。助。に。後。来。れ。り。九。初。や。小。孫。一。京。國。家。室。乃。正。法。候。に。叔。母。と
 志。て。り。に。歸。り。り。年。三。十。八。歳。い。ま。は。初。老。は。あ。り。に。終。業。せ。し。こ。を
 ぞ。備。え。り。虎。之。助。は。八。歳。之。即。以。元。素。重。安。の。令。を。り。し。ら。ぶ。こ。ん。り
 中。法。の。法。と。り。終。り。て。後。幼。兒。親。子。と。津。海。一。迎。へ。給。り。り。

放下一年好孫臨雙又虎條

小尾其咄兩雪其飛惠而好我攜手同歸其席不あり加後孫一虎門
信惠の終りに終て我を小田信長に屬し附風の業を世にあらん
を希ふ言言たる武家と名と終て平信長朝臣にむ弘治二年又
發後治部を捕義龍其又道三と弑したるを以て義龍と稱し懐りと
睦さんと終つとつ九其次に冷川義元と争戦殺して殊戦し終つ又
あつて永禄三年又月十九日義元と捕狭間とに終つて後孫出陣の用
意を測つ終つ同義龍を弑したる天飛にや麻痺又獲り其子廣綱
て死し其子發後右兵衛をま龍興と又繼で稻葉山の城を以て義元
つとつと終つて一國龍興を懐し者多しと又た家士は本次虎清門小
巻源を又旗下げた行中せ兵衛重治と名若あり信長或は
信長に陳國をと稱して發後の三傑と名し三人羽張りて龍興を保
護するにや信長數員は攻入終つとつ九争戦勝利なく終つた

行中が謀計は陥入らば熾眉の危急を脱して信長に滅し還り老長
等を聚め義元と需め終つ九謀士諸老皆終つた妙計を以て後孫
を會ひ頭と名し居らば本下及右郎を以て別を抽出發後家の輩
と名して降参り還らばの彼三傑と稱せらる終つて國を保ち義元
出らば此急勢の中本小巻此西勇を以て行中が翼と名し謀略と名
し其後和言を以て重治を味方と降し一國旗を卷て降して掌
の中より其長其一つの奇計を以て兩人を以て終つて忽ち龍興を
保して本小巻は日討と名し龍興が討を以て終つた

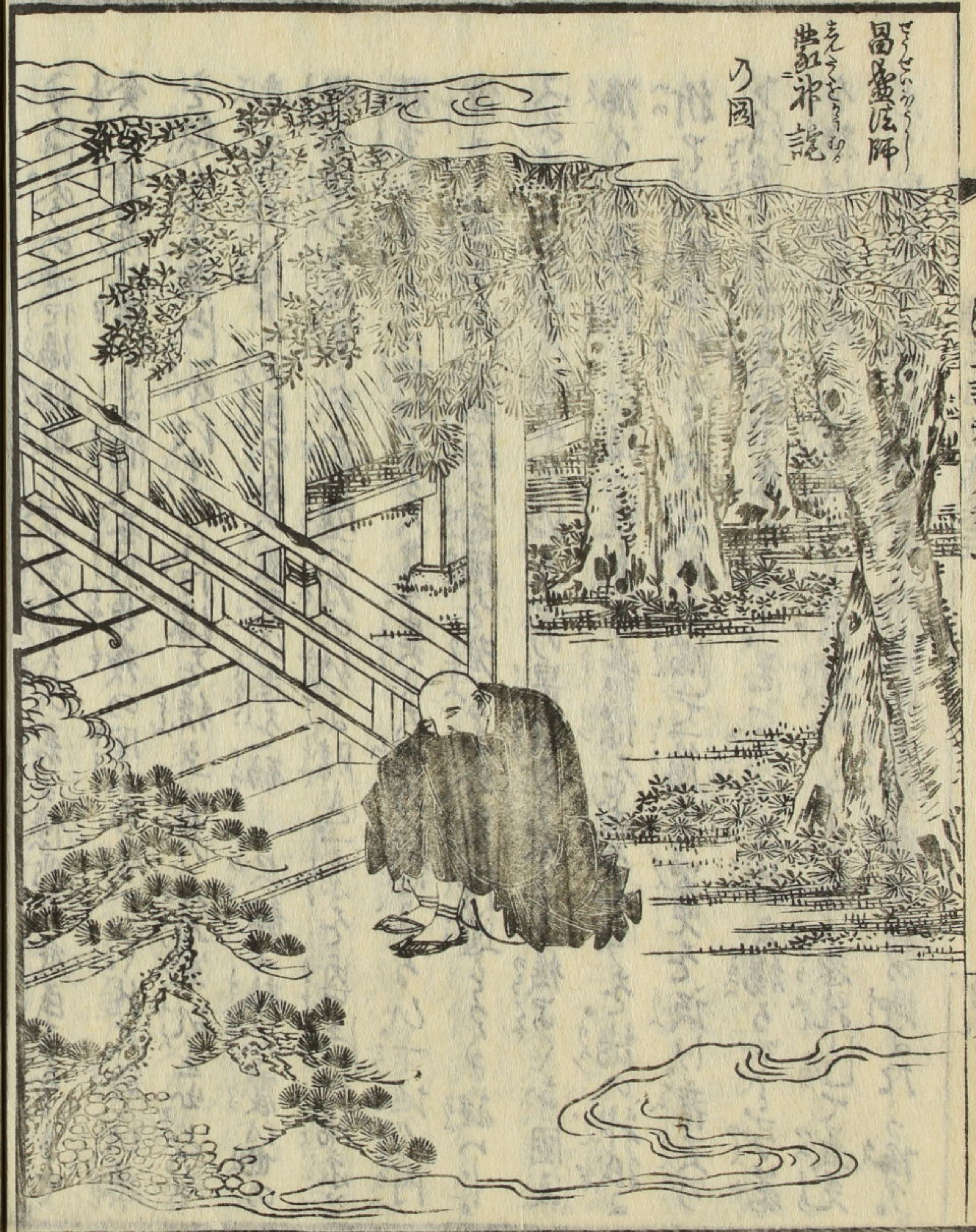
傳云本下及右郎舊の名の中村及右郎元若とつり尾張國を以て
那中村の屋敷之内中村孫右衛門一は又孫の切掛中納言保康卿乃
息女なり孫右衛門幼雅の時近に國は敵山より志受の奉り出せと
遂に法名を昌隆法師と号し秘密の二教を授け一念三々の法門を

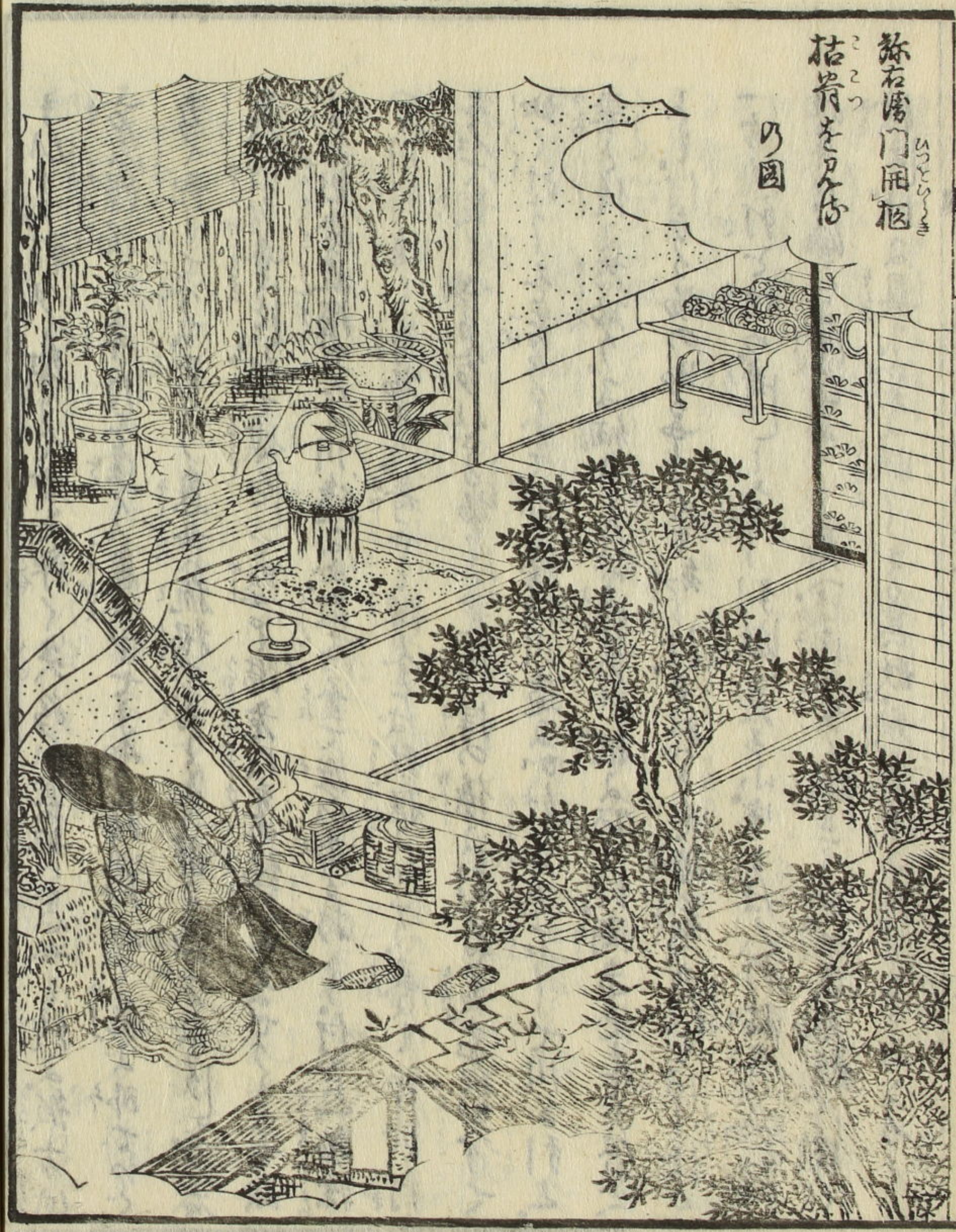
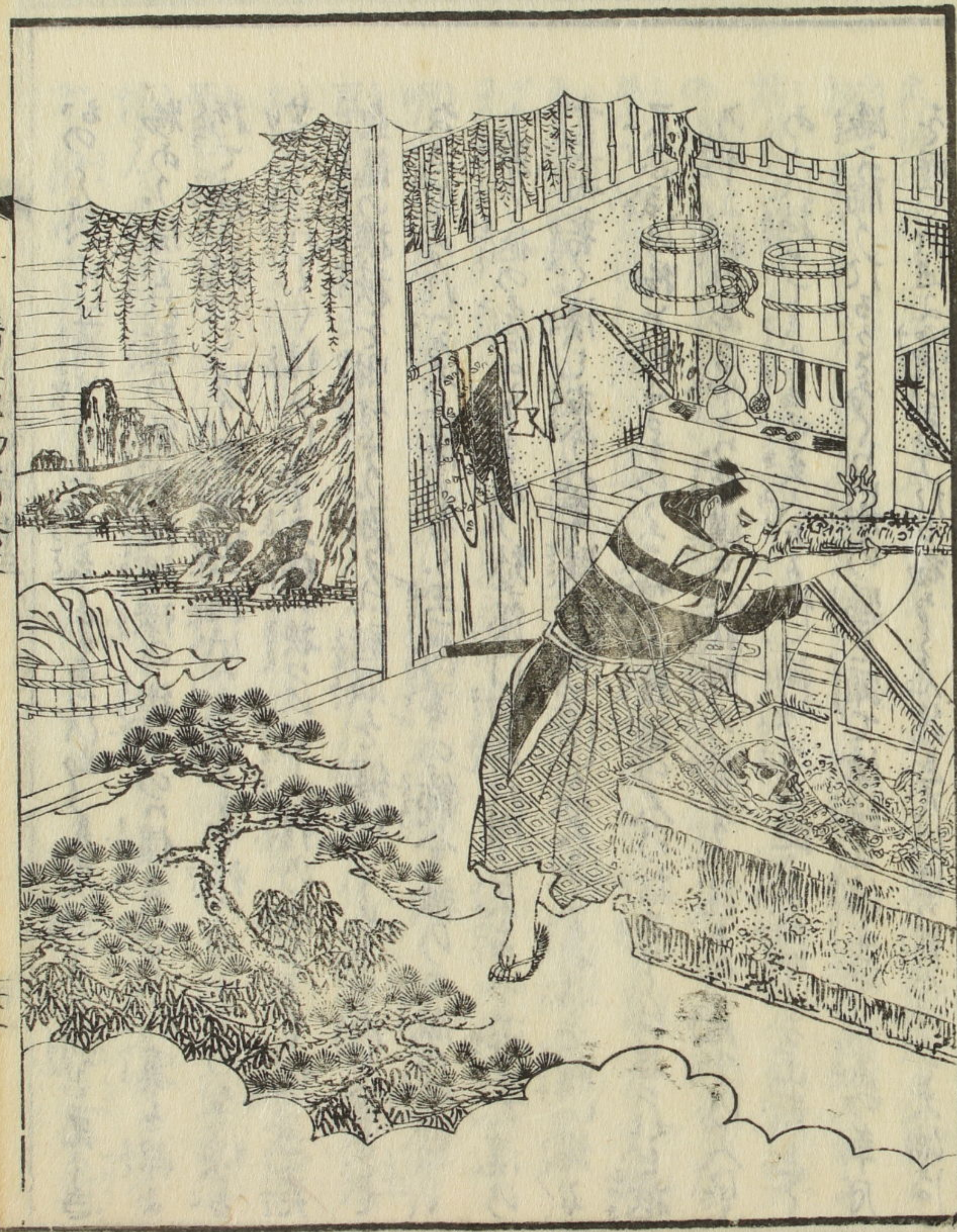
を叩ひくを免れ、或時はくく思入らく、八宗九流悉く具るるを、
 教多一代の正教甚廣大はして、いさ用ざる所の旨あり、抑我天香山
 出て一宗を建立する者、近くは法苑日蓮を輩たり、我又一ツの宗を起
 し、一家の祖師と仰ぎまんず、佛門の本懐と一心又大教を宣し、其
 傳教法の麻をり、唐崎の湖水より身を漂き、日吉二宮の宝殿に
 籠り、水教を宣し、七日に佛經を讀誦し、語つた大教、麻を
 せ、何れも亦此の神池を示し、後、然るくは神前、此の神を
 祈られ、七日又出る曉の霧、恍惚にして、此神、是は聖者、此
 傳教、睡眠の間、夢し、もく、現れ、く、宝殿の麻を、用き、衣冠正
 し、き老翁、兩手より弓矢を携へ、大座又立、微妙の善教を出して、のこ
 まい、く、は、今大教を起し、一宗を真立せんと、庶幾とつた世に、在
 利の法はして、妙見内院の教、海は、宵三、後、又勝方を争ふ、のる、
 教、多、代の、金光明經、一ツとして、衆生の、而、捨、苦、与、樂、の、法、は、あり、は、く、
 今、は、今、の、世、に、海、悩、れ、く、一、宗、を、起、す、る、の、表、は、億、兆、の、庶、民、に、あ、り、ま、す、
 今、く、陰、炭、此、若、く、と、隔、り、五、明、長、夜、の、團、小、あ、る、が、く、く、此、は、誰、か、は、慈、
 を、教、ん、ど、る、者、は、今、は、い、の、れ、に、海、を、統、る、一、箇、の、大、お、軍、隊、と、出、上、と、
 帝王の御、お、り、万、民、の、命、を、慈、愍、の、志、を、勵、し、只、願、し、替、を、震、ひ、世、の
 教、を、起、ら、る、は、是、を、善、薩、の、後、の、妙、は、勝、と、二、宗、を、由、立、して、諸、宗、と
 勝、方、を、争、ふ、功、行、と、大、方、を、突、く、大、悲、の、心、を、示、し、十、地、の、内、
 院、より、滿、足、と、し、熱、は、が、希、國、を、考、る、小、出、家、得、道、と、ら、る、は、後、に、
 又、子、孫、又、一、人、の、大、お、軍、を、起、す、石、の、果、報、あり、今、より、後、あ、く、本、國、に、
 降、り、又、孫、と、起、し、に、海、一、統、と、し、高、僧、傑、を、求、め、ん、ず、を、佛、の、神、祇、に、
 祈、り、志、信、奉、行、と、ら、付、大、教、を、滿、して、箇、此、奇、男、兒、を、改、け、番、天、の
 下、代、治、る、の、必、要、又、十、年、を、出、す、と、你、が、子、孫、又、賜、ら、る、と、弓、矢、
 を、授、け、教、を、勵、し、勞、よく、し、亦、何、れ、く、は、聖、教、の、忽、然、と、して、是、を、
 是、り、昌、隆、と、ら、る、を、祈、り、是、は、尾、張、國、電、智、郡、中、村、の、御、た、た、つ、後、に、

を叩ひくを免れ、或時はくく思入らく、八宗九流悉く具るるを、
 教多一代の正教甚廣大はして、いさ用ざる所の旨あり、抑我天香山
 出て一宗を建立する者、近くは法苑日蓮を輩たり、我又一ツの宗を起
 し、一家の祖師と仰ぎまんず、佛門の本懐と一心又大教を宣し、其
 傳教法の麻をり、唐崎の湖水より身を漂き、日吉二宮の宝殿に
 籠り、水教を宣し、七日に佛經を讀誦し、語つた大教、麻を
 せ、何れも亦此の神池を示し、後、然るくは神前、此の神を
 祈られ、七日又出る曉の霧、恍惚にして、此神、是は聖者、此
 傳教、睡眠の間、夢し、もく、現れ、く、宝殿の麻を、用き、衣冠正
 し、き老翁、兩手より弓矢を携へ、大座又立、微妙の善教を出して、のこ
 まい、く、は、今大教を起し、一宗を真立せんと、庶幾とつた世に、在
 利の法はして、妙見内院の教、海は、宵三、後、又勝方を争ふ、のる、
 教、多、代の、金光明經、一ツとして、衆生の、而、捨、苦、与、樂、の、法、は、あり、は、く、
 今、は、今、の、世、に、海、悩、れ、く、一、宗、を、起、す、る、の、表、は、億、兆、の、庶、民、に、あ、り、ま、す、
 今、く、陰、炭、此、若、く、と、隔、り、五、明、長、夜、の、團、小、あ、る、が、く、く、此、は、誰、か、は、慈、
 を、教、ん、ど、る、者、は、今、は、い、の、れ、に、海、を、統、る、一、箇、の、大、お、軍、隊、と、出、上、と、
 帝王の御、お、り、万、民、の、命、を、慈、愍、の、志、を、勵、し、只、願、し、替、を、震、ひ、世、の
 教、を、起、ら、る、は、是、を、善、薩、の、後、の、妙、は、勝、と、二、宗、を、由、立、して、諸、宗、と
 勝、方、を、争、ふ、功、行、と、大、方、を、突、く、大、悲、の、心、を、示、し、十、地、の、内、
 院、より、滿、足、と、し、熱、は、が、希、國、を、考、る、小、出、家、得、道、と、ら、る、は、後、に、
 又、子、孫、又、一、人、の、大、お、軍、を、起、す、石、の、果、報、あり、今、より、後、あ、く、本、國、に、
 降、り、又、孫、と、起、し、に、海、一、統、と、し、高、僧、傑、を、求、め、ん、ず、を、佛、の、神、祇、に、
 祈、り、志、信、奉、行、と、ら、付、大、教、を、滿、して、箇、此、奇、男、兒、を、改、け、番、天、の
 下、代、治、る、の、必、要、又、十、年、を、出、す、と、你、が、子、孫、又、賜、ら、る、と、弓、矢、
 を、授、け、教、を、勵、し、勞、よく、し、亦、何、れ、く、は、聖、教、の、忽、然、と、して、是、を、
 是、り、昌、隆、と、ら、る、を、祈、り、是、は、尾、張、國、電、智、郡、中、村、の、御、た、た、つ、後、に、



留置法師
世説神話
乃國





蘇右衛門用極
 枯骨を刀を
 のり

五言神集卷三



おのとはいじ薄きうれおととも思ひゆり。又側は宝剣と光しき
 物の。珠玉の飾。金環銀環の樓。の儘は。強。と。剣。真。を。早。に
 朽て。後。の。敵。の。軍。固。一。柄。け。の。鳥。令。を。他。り。た。る。も。の。り。ん。ま。
 苦。の。ま。け。ど。く。積。ま。れ。も。大。難。に。換。り。た。る。積。の。向。を。く。切。る。も。死。
 魚。龍。の。換。換。を。賜。付。さ。る。も。は。冠。服。を。纏。ひ。つ。も。肉。之。腐。り。て
 な。ま。き。や。ら。ん。が。ま。き。換。り。も。玉。石。の。帯。の。飾。金。銀。の。玉。珮。の。壯。敷。い
 と。ぬ。く。柩。の。危。ま。ま。れ。り。孫。右。衛。門。初。率。北。討。る。天。右。山。に。在。て。新。漢。の
 書。藉。善。く。讀。む。お。今。れ。奉。踐。の。後。し。じ。ら。ん。大。き。な。表。情。を。催。し。怖。く
 不。思。議。の。物。と。ゆ。り。も。の。ま。ま。按。さ。ふ。我。國。の。人。の。枯。骨。と。は。思。れ。ど。柩
 の。中。に。収。め。あ。る。あ。く。は。結。漢。の。腹。飾。乃。具。ち。り。猶。も。耐。は。れ。中。の。人。に
 あ。ら。ぬ。極。め。て。る。宿。の。妻。人。か。ら。ぬ。海。濱。迫。き。地。は。葬。埋。し。を。山。崩。さ。り
 海。に。陥。り。た。る。う。さ。ら。く。山。水。の。瀟。瀟。瀟。瀟。て。滄。海。に。流。し。正。教。の。奉。月
 を。歴。て。け。地。は。海。に。葬。り。た。る。物。も。ん。猶。も。た。け。國。の。皆。入。海。を。て。大。海。は。

大海の渾まことを流しよ。大。多。色。多。美。よ。来。り。て。人。は。も。た。ら。ん。に。我。も。は。福。く
 柩。を。開。く。も。全。く。新。生。れ。給。来。と。笑。へ。り。と。故。て。家。に。後。方。り。細。乃。中。に
 枯。骨。を。葬。り。を。積。で。塚。と。し。心。斗。の。伴。り。と。を。嘗。と。る。斯。て。教。育
 の。後。我。族。唐。衣。唐。冠。と。し。や。う。小。整。ひ。髪。髻。雪。む。く。其。形。事。な。る
 先。人。孫。右。衛。門。が。柩。の。邊。に。立。手。と。掛。ぬ。き。れ。と。は。し。下。宿。の。元。朝
 奇。握。温。氏。は。仕。へ。る。干。茶。氏。某。と。を。者。ち。り。我。族。官。の。め。と。ら。ん。と。も。
 元。朝。代。の。孫。と。か。い。ひ。も。恩。刃。も。余。も。我。元。朝。の。血。脈。流。り。た。り。
 明。の。大。祖。朱。元。璋。が。ぬ。も。己。が。さ。れ。惨。り。骨。髄。に。徹。し。竹。に。ま。し。り。と。く
 再。し。奇。握。温。氏。の。世。に。記。え。ん。と。歎。れ。た。明。の。化。一。統。は。し。て。勢。ひ。強
 大。な。ら。ん。が。れ。ぬ。微。勢。を。も。傾。る。も。終。り。は。生。て。り。朱。氏。の。常。と。る。と。見。其
 粟。と。吃。ふ。も。を。厭。ひ。記。し。て。り。骨。肉。を。明。去。の。地。に。葬。ら。ん。其。ま。の。草。木。を
 培。え。ん。も。を。怒。り。の。柩。を。造。り。身。を。其。中。に。収。め。後。者。も。命。に。守。る
 が。滄。海。に。放。り。し。柩。の。中。に。終。焉。を。と。ま。り。其。時。皇。天。の。神。祇。は。所。

一世の向も明も難言とるの故に彼も生と愛と怨とをなさんと相違り。
 猶も小海と源蕩此年と積もば百余年浪は深し潮は引き不測の
 け國も来り。只下れど仁者の多に知らる。枯骨を海東の君も困又
 蘇らるる。我畜念を達し。又只下日く又上下れ諸神祇と拜。
 日海の乳と空め万民の衆若と松ふべき子孫を好ん多を祈り。大秋
 満望の時来り。冥婦近き向懐胎して産む。男子出生あは。若成長の
 附も錦まはに海平空の功。何ぞ疑ひ何ん。我精心教のどくは。まを
 を保護。慈眼を結む。附ありん。と何りくと若くと是へて。操備と
 斗も矢うたり。弥右衛門再び恨。其性名所同ん。ととる。一場の愛
 んぞあつる。心を静め。附魁を考ふる。小疾才の種程くと郷幸。其婦母
 しく。因心醒。鳴思ひ。や。今我懐。日輪光と放ら。入終ると是へ
 て。愛え。と。語ら。ぞ。弥右衛門も且。怒。叔。上。天名。秋。を。満。り。
 終。も。瑞。着。之。依。正。く。懐。胎。と。き。兆。し。我。も。奇。異。乃。遠。く。何。り。と。愛

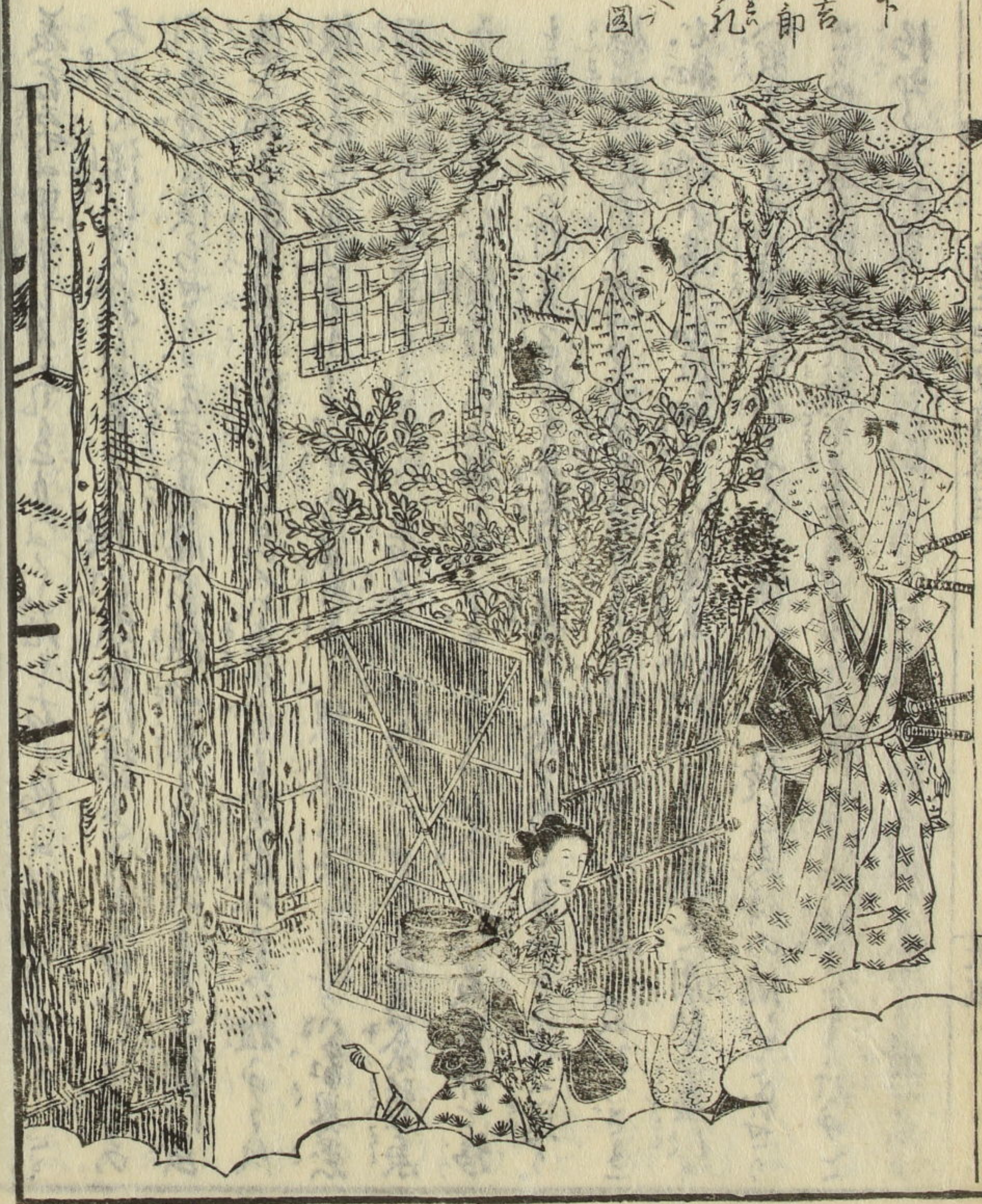
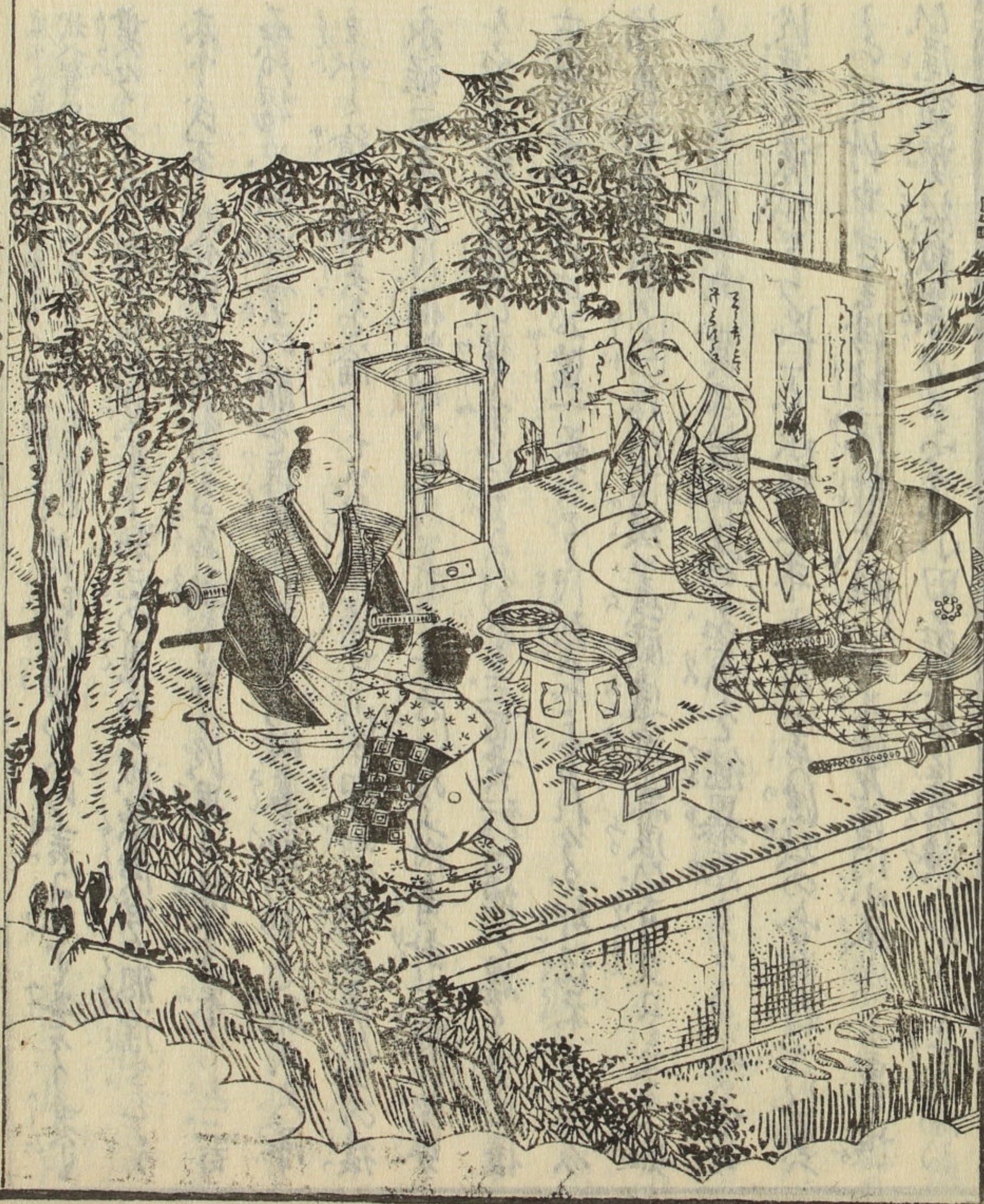
想のゆも委く。語り。か。り。人。も。若。る。や。う。と。心。も。秘。して。ま。り。
 き。果。して。其。妻。胎。あ。る。を。是。へ。天文。乙。未。年。丙。申。正月。元。日。寅。の。魁。男。も
 出。せ。や。其。面。様。も。似。り。初。名。と。日。吉。丸。と。号。け。其。性。奇。異。の。神。童。也。
 釋。り。ち。る。も。長。て。後。本。中。若。右。郎。と。名。乗。後。の。孫。も。此。本。流。守。
 天下。一。統。して。終。り。位。階。人。臣。の。格。位。を。授。け。是。は。大。國。幸。也。云。云。
 云。于。蔡。氏。が。再。来。ち。り。後。又。再。来。と。稱。し。孫。人。再。来。の。文字。も。ウ。サイ。の。音。あり。又。この。君
 我。は。も。孫。と。云。ふ。向。つ。て。勝利。ち。り。核。州。周。州。に。國。九。州。西。又。向。入。附。の。勝。ど。と。い。ふ。や。う。
 信。長。も。は。が。我。の。勝利。ち。り。有。西。と。宣。ひ。き。有。西。の。又。宣。ひ。し。ウ。サイ。の。音。あり。且。後。年
 朝鮮。國。で。流。依。り。孫。其。美。大。明。を。攻。め。孫。も。必。死。す。り。云。干。蔡。氏。が。明。又。難。言。を。報。ん
 と。と。り。其。後。孫。も。孫。も。再。来。の。名。に。し。たり。と。い。ふ。一。儒。士。あり。これ。を。難。し。て。曰。く。
 人。死。して。天地。も。降。降。し。て。再。来。ち。り。と。い。ふ。や。う。と。と。り。孫。も。易。姓。又。孫。も。易。姓。
 遊。魂。も。孫。と。い。ふ。と。一。縣。又。再。来。は。た。ま。か。り。孫。三。歳。の。附。父。孫。右。衛。門。病
 死。ち。る。と。い。ふ。家。産。も。孫。も。愛。さ。り。し。り。は。妻。の。幼。児。の。才。也。云。云。と。い。ふ。
 て。は。して。同。郷。の。人。孫。阿。弥。と。い。ふ。翁。の。家。に。日。吉。丸。を。連。て。再。家。せ。り。
 孫。阿。弥。の。小。田。後。後。守。信。委。め。此。日。朋。ち。り。孫。も。我。場。も。孫。も。
 膝。臍。を。射。ら。る。脚。歩。心。も。何。せ。び。と。け。地。も。退。き。農。民。も。知。り。妻

實に嫁してより、又女の二人をせり。一女は成長の後、中村を三好孫女
 孫女後、三好武彦法印一踏と号し其子 あつ、初名三好孫七郎後、圓白秀次と号す 一者又嫁せり。二女の傳乞と略す。
 堀河孫生得頼はして日吉丸を降せり。母の父は多喜比と行よし云
 て出多丸はしてんと。八歳の時、禪家寺をせしめて、膽量人又孫後孫
 元公通中にあききのなり、孫由寺門を造せし。十又歳の時、遠州又
 孫三松中との一者の方又隅口にも、武術、鞍馬の温良と仰き云云。鬼
 鬼と縛りて、張又房が虎を驅の法、皆我物よし。其後小田信長朝
 臣又仕、後又足腰とめて身を容らる。山時永福元年、年二十二歳
 中村後吉郎元吉と号せり。版又の乾坤を掌りたる機あり。よつとも、
 其容直のむと、魂き小漢りて、初めの時、孫又似たり。がとて、郷中、此民日吉と
 云名り呼ば、唯孫冠者と云名りたる程なり。其状思ひ申すに、小田家の
 諸士界のどくに、将んたる。又又富家足腰紐を死る士は、朝せり。右門
 長勝と云人あり。遠く先祖を尋ね、又法和天皇、又又代の孫、源光朝也。

苗裔、長守光御の三男、判官代光時、其末系、又右衛門男、二人女、二人
 あり。男子は孫、長政二人の女、とのふ、実の長女はして、板原七郎右衛門
 長房 後、初名長守と号す と云名りの女あり。長房は先祖、平性平兵衛軍
 長十代の孫、伯耆守光平の後胤と云り。長房は男子二人、女二人あり。
 男子は、本下雅樂助家定、第二女、第三女は、彼よか妻の生、あはして、弟、世の
 女子は、安勝之、光七郎右衛門、長房の御妻を、久し程、久し程、久し程、
 し、又、是を、再び、妻妾を、需り、嫡男、雅樂助、家定、を、継ぎ、若く、は、と
 て、家、の、孫、三人の、女、を、た、は、婦人、な、き、家、又、女、を、た、は、西、側、之、實、人、に
 又、何、れ、は、徳、ま、樵、夫、の、家、と、て、と、ま、り、妻、の、生、を、う、り、弟、に、女、と、は、
 智、郡、中、村、の、能、工、屋、主、清、方、は、長、女、と、して、産、し、たる け、人、後、津、原、の、能、工、屋、主、即、ち、
 又、孫、は、虎、三、郎、の、初、名、也、
 朝、孫、孫、在、湯、門、を、守、り、く、より、孫、若、かり、し、其、後、長、房、が、方、又、あり、行
 條、門、の、子、元、を、農、家、商、民、の、場、を、謂、は、は、若、而、女、元、長、勝、は、下、り、
 を、息、孫、を、孫、の、嫡、孫、の、向、是、非、一人、を、は、妻、と、し、長、房、元、素、藤

本を依て扱ひし者強人なりしは女を奪り大炊婢より大心使せし事
 終へんとて後我のりりて中又も終て西人の女名を長い女実子
 のく極育せり女名お人甚貞操あるもの。怪剛空をたて万人よ
 知し志し皆男の胸襟あり。公長は後妹あり者を嫡男跡を属長政
 又死せ其婦いよこ家にあり。諸士彼方け方か迎へ女んと仲媒して
 人殺すありの元跡在富門行り心辨る曾て受引せけ人眼又方機と
 鑑見識ありて是莊中村長をけ小はして諸士に将んとも公見るも獨
 慘りを愛し我小田家か感の言きさの歎しと。魏の范曄淮陰乃
 轉信其秋又放てつして執不は「皆海内の真傑范曄の秦へ引いら
 と名成我國は轉信の漢へ抽られて劉氏の基業と死せり。西國
 の諸士今又看よけ若く功を敬ふ世も昭とれ仰で其面をかるもの
 あり」と洗吟する。其後行り中村親とほ「或附家に拓き然
 女あり。醜とつた婦人の情を失りけ汝もな（聲とせばいふとつた）

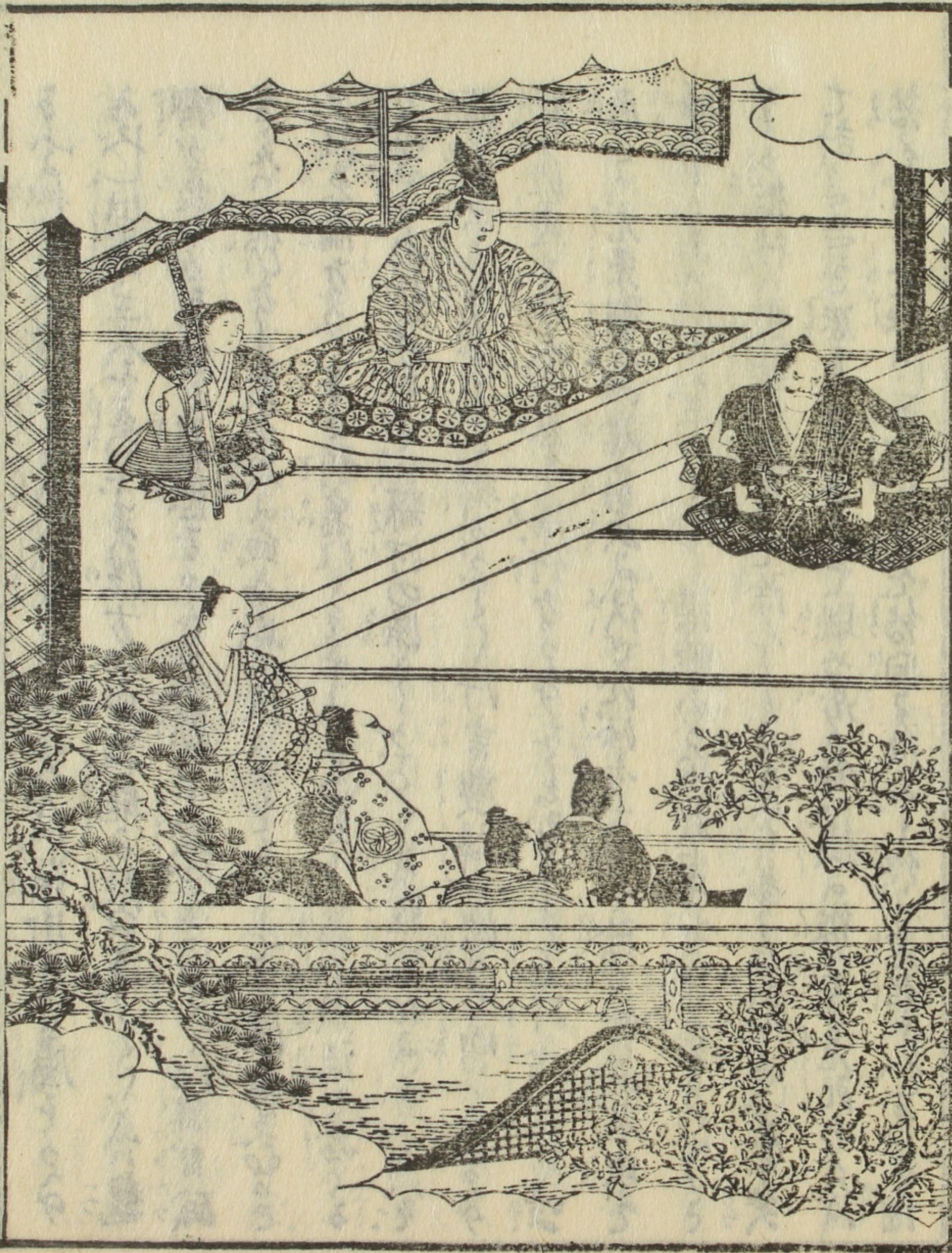
長吉又又卑下とる元をりなくたも在り仍も後ひや受んとこと
 大換又後ひく。然らば吉日を撰び我並に後よとて中村と自らの
 門長屋は後らせり。元来長勝家縁お應は場つと元只顧に武
 途と好も系馬武具の於たよつてを厭と突求め家の難うは
 候も心を引ひさるふ。百の付費多く根張も後「けういぶが具悉
 用の心曾てなきの。愛物に居る斗極は」の事を後其の余は葉葉
 をせ遣りたる猶燈との人物と布りささるけは合るけは後若郎と稱
 と長屋に竹筥又けよと遊と集めて後せ終て息女を愛又送り。
 婚礼の祝式させり。不徳甚なりとより能く蓋えり墓へ安けり。さ
 ら知多郡か造り出た細口との陶器。今の世の又茶碗を用ひて蓋けり
 へ致しりとしては海浪をけりかくと謡いとほ「終り又婦の流いとせり
 とうや息女即大閤此政不をり。天下と志ら」るまで後さよとけり。さ
 仍ちりさ節り笑ひ流し」とうんげ日か中村を改て本下と稱せらる



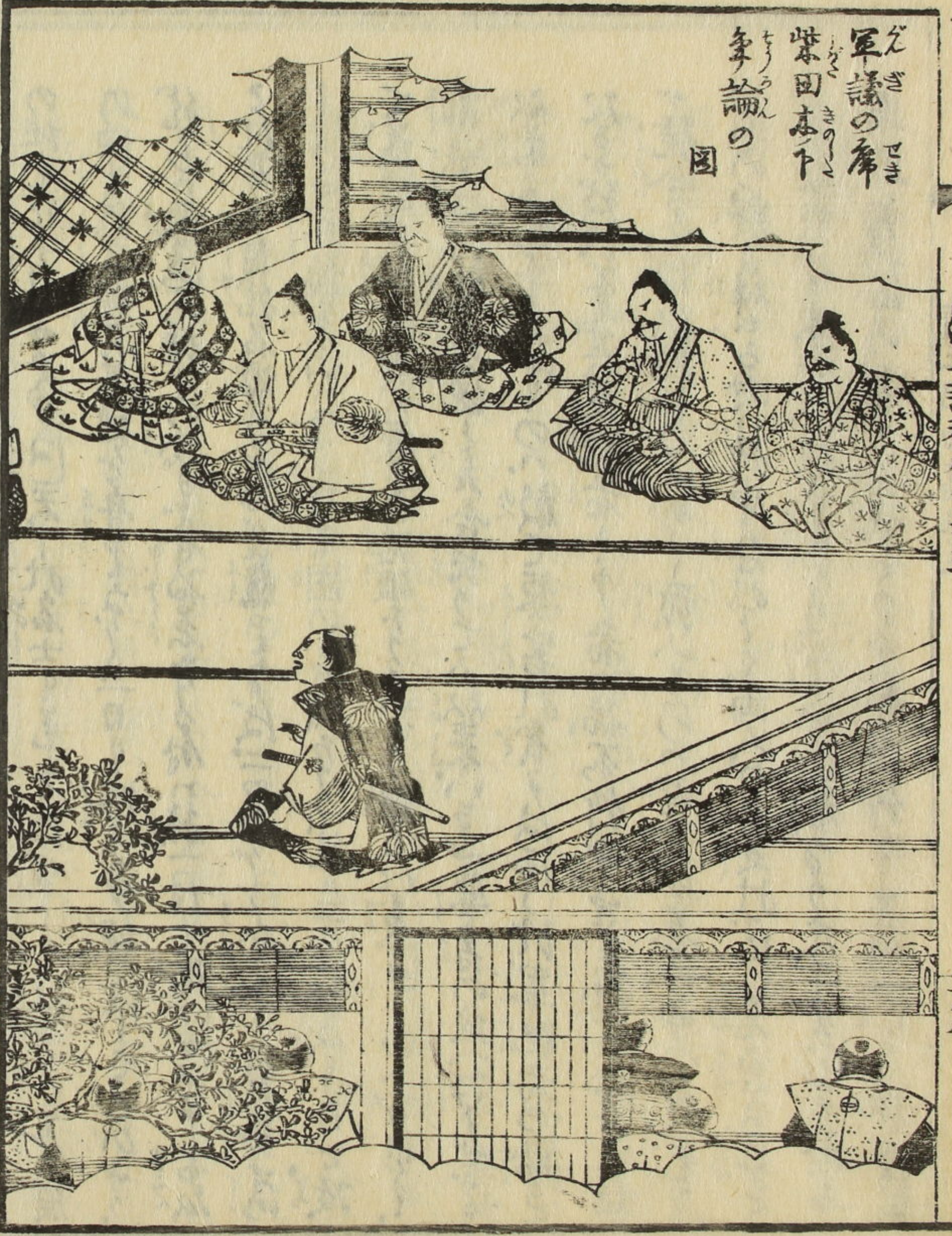
本下息女の性之悪をりくの中戯しき其以尾張の人の言はきもきり果も
 我々聲のよはこは下をのいししはも 貴々うらひ離せし朝神本下知己の見あるは秘謀せる秘謀せる
 本下氏石井合戦馬名の名教をきり後果は隊士は拳しと二百
 石代陽り、或は城壁の崩を再修刻番徳の時義勲の妙を成り大降
 皇水と滄の得夫を倫しての衆心一鼓せしむ即妙の機を用ひその後
 永祿三年八月桶狭間今川義元を討つし時奇計と旋微勢
 を以て大敵を龍ひ獲て次弟の約は二百共の地を獨り柴田權
 六勝家龍川花近守監一益るど月列をせりるが却て不し総以
 信長朝長今川を討つし後い威威遠近益度い本文よきる如
 く、母を義龍死し其子龍興父の家系を継暴悪するも父方ら
 比速は後代せりしと永祿三年六月が兵謀攻の合戦及に益る
 と久大竹中才助流謀計を成し本決花備門小巻源を勇と振
 ひ尾張勢は就果をふるふ小田家の君は若嶺山に下り一月満ぬ
 を集り評議を不に最後終るとて未と改せざりやは本下後を即道
 出崎鶴を捕ゆるは、即羽翼を去り如く、御勢一度は墓と為勝利の
 きりの兵謀方本下小巻竹中の三傑が有あり先を討て後御
 軍勢と向らば又血を塗じて忽後い伏せし長くと御勢を
 んより彼三人を乞に御計後こそ用なりしと幸もかけし言とせり
 喬本局を悪まるとの世に流のてく本下歩率を文を記し、出崎歴
 くは圖老と膝を並べ軍議を執るのを悪く柴田勝川より不棄を
 懐き行くとく、渠が勢いを仰へ換さんと計るをに今列中よとく
 傍より入りあげたる言とて一層益り心膽脹まはは、面を見合り
 中には勝家本下向ひ大國に大國の衆勢を母後いえりるを、お士皇
 のどく軍率を餘に充て、三士と除るは國のそるは、御多んや、つと
 國の邊不堅と地理の要害に、もるが、唯今とるは、御評議は
 て先功歴の今とく、短評し、い、一言と出する小巻し、とて、用

三無評と妨げらるる行りぞや。亦中しし懐くは、氣を正し無
評の者なるは、合戦の得失勝敗の機を述る者也。又、妨げを
いふは、吾等論を論じ、餘り行りぞ、應くを懐く。や、而と、正し
口を開る。謂はし、所、逸、是、今、の、論、は、後、家、の、大、家、に、て、兵、と、又、多、り、
何ぞ、三、士、は、拘、ら、ん、と、そ、こ、そ、我、と、は、是、家、の、目、は、情、若、女、の、言、と、は、
ゆ、と、懐、懐、の、群、鳥、合、の、衆、無、令、行、十、万、會、里、の、り、た、行、兵、を、よ、る、附、り、
悉く、微、塵、は、踏、殺、し、た、は、又、和、漢、た、今、獨、歩、と、呼、り、名、君、の、軍、師、
を、訪、ひ、豪、傑、の、士、を、懐、け、士、率、れ、多、き、を、憑、と、せ、既、に、齊、國、の、回、軍、
後、は、三、の、軍、兵、を、率、て、燕、の、七、十、餘、万、を、破、り、我、國、の、楠、正、成、稍、く、八、百、
余、騎、の、微、勢、を、用、ひ、と、八、十、万、の、大、軍、と、眼、目、を、ま、ご、と、く、に、と、る、もの、の、
皆、名、大、將、の、智、術、は、て、勢、の、多、寡、は、あ、り、又、要、害、堅、固、の、名、城、と、云、
一、尤、籠、る、不、れ、大、將、を、味、方、の、附、り、日、も、保、け、ま、さ、し、の、小、水、と、は、昔、秦、始、皇、
を、咸、陽、に、在、て、國、家、と、記、し、始、皇、の、智、勇、智、勇、は、た、る、が、あ、り、一、度、も、咸、陽、

の地を犯されぬものには、天下に名士もを濼嘆して、沃野千里天府
の地、及び、嬰、其、地、を、守、り、と、く、一、日、も、堪、ら、ず、終、り、た、て、と、び、
尤、ら、が、要、害、の、地、と、の、り、守、り、を、お、さ、さ、り、附、り、終、一、日、も、拘、り、
これ、が、り、自、然、名、城、は、名、將、が、籠、り、ま、さ、し、二、つ、た、が、り、全、く、て、容、易、は、
し、し、を、編、素、山、の、要、害、堅、固、の、名、城、な、り、然、し、尤、我、も、と、と、攻、
て、為、ら、ず、終、り、附、り、要、害、堅、固、な、り、ふ、り、握、り、に、ま、さ、し、一、の、り、
抑、味、方、の、勢、は、兵、と、を、合、起、り、て、み、必、未、い、ま、に、要、害、の、地、押、さ、さ、る、
必、然、之、利、を、失、ふ、もの、の、故、て、要、害、は、後、は、何、れ、軍、師、の、勝、敗、
たる、が、致、し、不、其、軍、師、者、と、り、者、の、指、不、竹、中、す、ま、傷、を、入、す、ま、傷、
が、統、令、を、用、ひ、眼、目、を、ま、さ、し、我、も、の、り、理、本、小、卷、の、あ、り、た、り、
一人の體は、確る附り、竹中、心、は、と、く、兩人、の、ま、は、れ、し、先、急、も、こ、と、
は、た、る、者、の、中、本、小、卷、は、ま、さ、し、心、い、ふ、小、織、り、た、手、足、の、ま、は、り、
進、退、動、心、の、と、く、自、在、と、る、の、終、り、竹、中、其、附、り、謀、を、し、



軍議の席
柴田本下
争論の
図

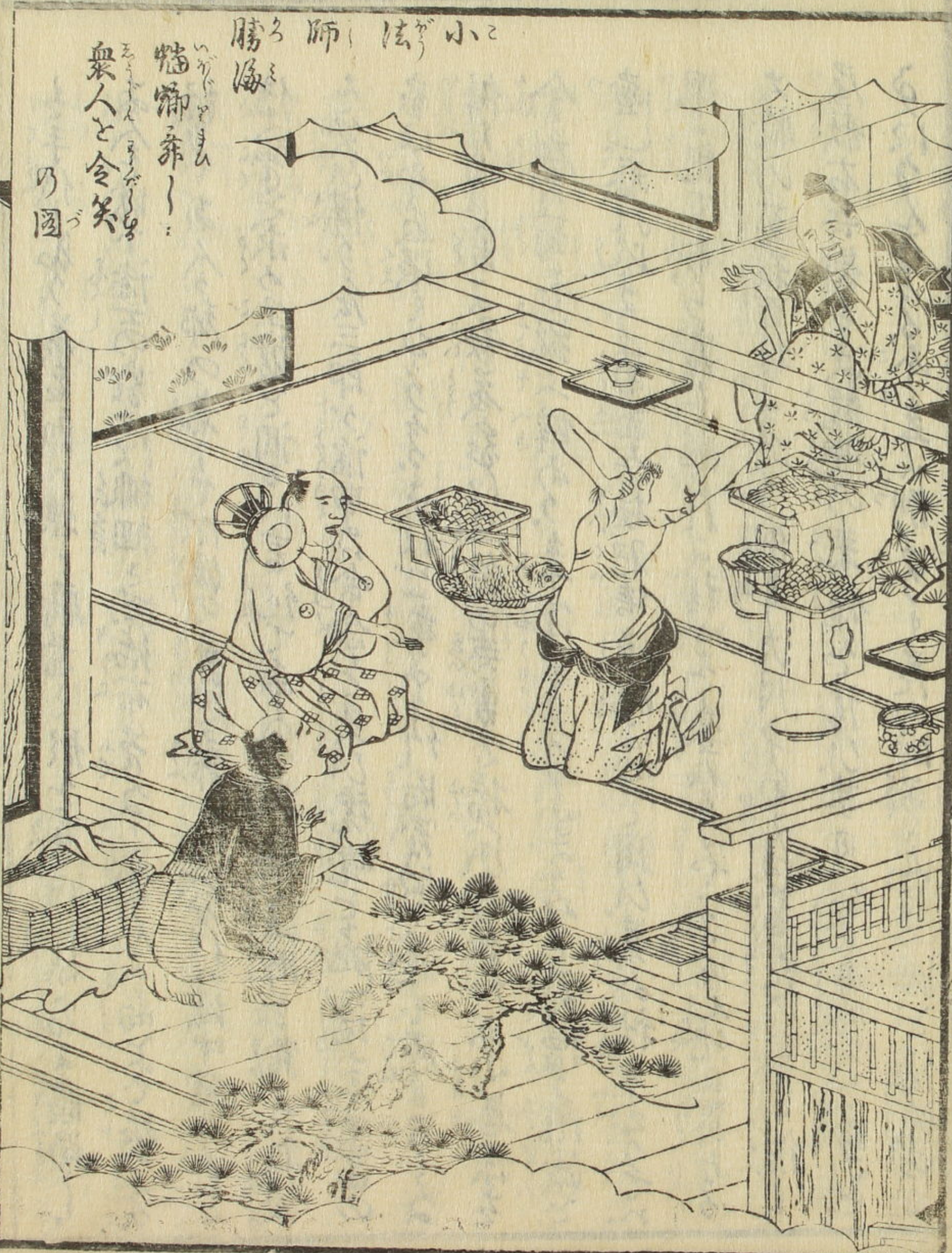


そふに御つり。計尉兵を考へ味方より振きつれば。渠御手は屬するもの
みだし。計軍三人を失ひ。吳漢方の衆は龍も改めざる。或は龍
興がるるを悪む。暴悪なるを引懲り。衆心居のうちに解自滅
をえり。然るに。乞をぬく血をぬらば。三士を廢して。吳漢を定むる
中。以て論わたり。いまだ利害にも。且てさふ。是下某が。無評と。功
しの。さふ。い。竹の。ぞ。と。縣河の。流る。ぐ。と。く。義。理。明。白。の。言。高。い。を。
勝家。怒。瀧。の。り。ぐ。と。く。破。る。ぐ。と。く。行。言。雙。聲。の。流。り。て。惜。く。言。さ。り。
終。つ。は。應。中。の。人。の。息。を。法。行。なる。もの。を。も。出。し。と。んと。行。嚙。と。飲。て。は。
居。る。元。來。剛。氣。の。勝。家。又。伏。せ。は。汝。今。三。士。を。除。く。尉。兵。の。血。を。
塗。ど。と。の。れ。と。と。三。士。と。除。く。謀。略。ある。が。我。軍。が。拵。は。中。に。は。し。や。と。
や。が。彼。後。の。龍。興。が。腹。心。に。て。除。ん。と。と。る。た。客。易。の。は。計。に。は。本。不。笑。
て。計。の。ま。ま。を。恐。る。も。と。東。の。て。眺。め。居。る。尉。兵。後。は。彼。多。く。老。死。と。ん。が。
後。不。計。の。ま。ま。は。後。は。老。死。と。る。を。待。回。す。は。已。と。後。は。老。死。と。ん。は。乞。不。調。
に。を。用。ひ。く。天。の。甘。露。を。待。と。す。の。計。が。ま。計。の。難。き。を。お。も。と

これと等。策。を。中。は。以。て。あ。ら。は。や。若。某。と。お。但。せ。終。つ。げ。本。不。笑。と。云
ふ。竹。中。守。の。味。方。は。降。と。き。調。略。あり。勝。家。再。び。言。論。せ。ん。と
と。り。尉。兵。長。朝。臣。雙。方。と。制。し。終。ひ。不。論。論。の。毎。用。也。然。も。三。士。の。為。要。
なり。然。知。と。り。其。計。畧。の。へ。る。と。や。後。右。即。兵。法。は。謀。計。の。鬼。神。と。云
渡。と。な。る。は。と。や。世。に。傳。ふ。言。上。は。は。三。士。を。計。る。調。略。は。已。と。但。せ。終。つ
と。な。る。は。未。成。就。の。後。は。後。に。言。上。は。と。ん。に。乞。元。來。總。明。活。氣。の。大
お。其。心。を。悔。り。然。ら。ば。思。て。汝。に。と。懐。墓。乃。内。に。入。り。は。味。方。回。計。の。水。を。右
笑。ひ。て。退。出。せ。り。後。右。即。其。後。復。不。な。り。謀。計。の。機。密。一。く。又。言。上
と。る。ふ。一。の。首。躍。り。て。ば。乞。も。本。不。が。脊。中。を。振。動。喜。斜。を。ら。し。は。
曉。も。さ。り。服。終。り。つ。御。手。は。退。き。其。後。機。密。の。用。意。を。調。へ。腹。心。の。若。一
人。引。連。尾。張。國。を。出。さ。り。公。知。る。者。多。し。と。云。り。斯。て。乞。不。笑。都
に。登。り。勘。解。由。小。後。は。相。知。る。者。少。し。と。は。乞。不。笑。と。旅。客。は。高。人

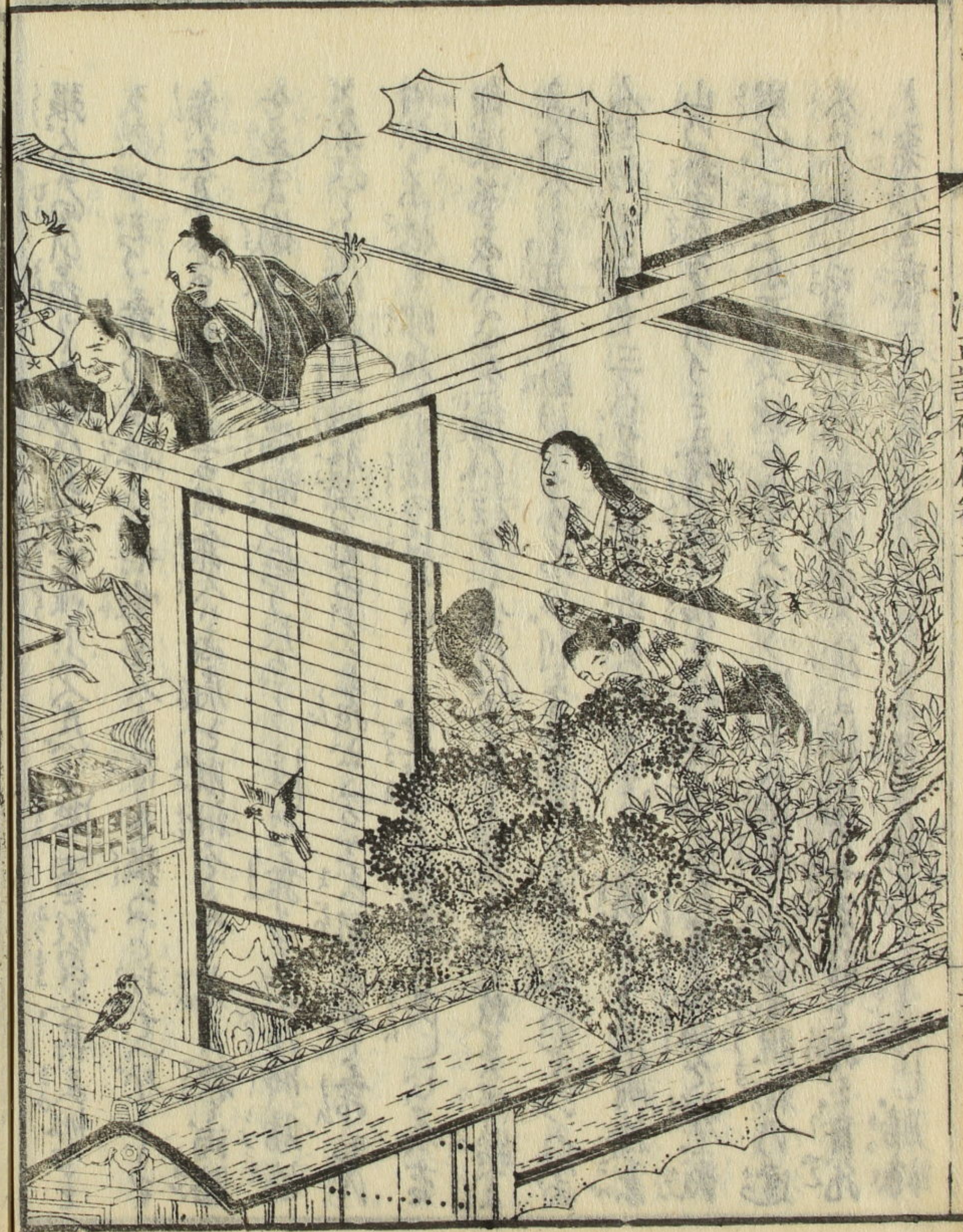
乃ては彼方け方と繼廻せり。又は長服高小三郎（人傳ありと）
 又小法師勝海（今見しは系系都より余通る余通る）と者あり。又小法師勝海
 を旗名と呼ぶ也。三郎は織物美綿絨布の敷懸く調勝海
 といふと結せ行くと賤を論せし求むるも、其人其甚眩ひ然得
 意こそとさんなりと目こに奉りて、慰ら因事を使酒肴致菓の結
 物終る向は、本个も夏秋あると、逼留しかりし。暇日に西山
 东山訪り、ちく西人を伴ひ逍遙し。又は本下が旗名と奉り、同じ
 系三郎の敷は妙を以て諺に、本向の塵を飛とむる。又人感涙と流し
 小法師の舞と舞ひ、其はは、物系、猫脚、舞とふる。流し、渠、猫脚
 舞は、名、今、猫脚、和名、かまきり（一名、猫脚、和名、かまきり）、後、諸の虫を食ふ、藤代、流
 又、猫脚、舞を伺へ、野多、猫脚を伺ふものあり。又、他が、性、鷹
 あり、己、大、き、なる、若、を、と、ん、と、見、し、人、あり、て、怒、り、流、し、河、に、た、た、の、ま、と

張人よりひ飛くる勢ひあり。小蟲とつたべと、思き、形、面、之、其、美、如、と、と
 ろ、が、い、が、ち、う、舞、乃、は、振、と、う、や、難、と、ん、も、僅、々、敷、と、お、て、い、が、と、り、
 舞、を、見、さ、い、と、難、し、る、付、舞、人、の、あ、肩、と、腕、袖、を、た、て、帯、又、袂、雨、膝
 を、ま、ま、勘、立、雨、の、肘、猫、脚、の、如、う、た、ら、う、は、て、舞、ひ、之、小、法、師、勝、海
 が、象、け、く、に、霞、の、眼、眉、乃、目、の、ど、く、飛、出、う、ら、が、美、敷、又、如、て、舞、ひ、
 附、ひ、う、小、様、と、呼、ぶ、人、の、腕、の、皮、を、い、う、と、連、麻、名、上、師、を、い、ひ、
 師、傳、る、あ、人、又、心、を、鑑、び、後、々、八月、に、い、か、い、は、さ、う、い、我、美、流、路、ま
 う、ど、ん、と、其、を、助、け、て、り、り、結、り、利、を、は、流、く、分、て、手、へ、ん、と、い、は、あ
 人、と、流、し、と、日、に、三、人、お、連、都、を、出、美、流、路、を、こ、て、振、き、う、ら、け、附、輪、系
 山、の、舞、名、た、ら、う、あり、と、ま、隣、國、又、如、き、龍、興、又、い、は、舞、風、流、を、好、む、我
 國、の、中、小、西、又、大、敷、を、校、こ、み、う、う、酒、さ、は、淫、靡、し、吃、茶、蹴、鞠、乃、達
 人、又、幽、く、石、き、し、巧、高、諸、君、大、舞、又、娘、ひ、男、女、美、服、と、好、む、自、然
 と、若、傳、又、藤、き、る、三、郎、が、人、お、よ、き、若、り、れ、は、毛、を、ま、る、人、と、勝、海



小法師の勝海
 猫踊舞
 衆人と令矢
 の図

書正記初篇卷三



書正記初篇卷三

手代りあり。後吉郎の態と斬者と形を愛日。旅宿又過宿し。
 友人を城下諸家の家々に細細と結布等々と盤ん又高とを始りたる。
 後吉く友人が都の者として風流の舞と舞は「まへに」城中外と
 傳へて求め兵服と潤りに言化て友人を拓き小法師が舞は「腹袋
 を笑ひ傷り」三郎が謡曲より余念を失ひ魂魄と「諸君富の
 家はむね限りなうりたる。されば菘子や竹。周府奴が蓮も原と
 僻たり。又又秋友家三箇の英勇と指爪おきたる。小巻源を
 金簾の菊を祝ふ僻あり。年俸をたうりふまうせて花壇は風流と
 壺」春れはより菊苗を植肥培灌漑と心と困ひ。夏秋とよりてい
 風と記て自ら虫を誣れは「精心を委ぬるやよりん他は異なる
 大輪の菊数百種と及べり。例年九月中旬には菊花の真と催し。
 屋敷右兵衛と美龍興の奉儀を請ひ。其日「欠負儀」を盡すと
 夕にらんあたる。今年例より花の討り。九月十日と信條の日

と定めて花園の芙蓉言語と終り。紅白切を分ら。乞と植紅
 菊の棚のよき悉く和紙の日と遮る障子を引ひ和紙の糸の幕の
 真細の紐房をひて多く掲げ。水晶の後れ簾の細細の糸を用ひて
 貴き美白と皆これに比し。実麻基の百花の園沈香亭乃牡丹
 の意。乞は「いりて勝るき」と目を警以壯靨たり。本下後吉郎は
 信條は「波野波野」を得たり。九月は秋源又「旅宿」を出小巻
 菊の園と溜り入風を引ひて飾いある。大小れ菊花一本も飾りあり。
 力を抜く。別「秘密」は旅宿と降りしを。知る者又なうりける。乞
 素幼雅耐。花「梶田川」はといひ。つる細間の好。何人た又親し。
 乞云。予は「六篇」より用向の篇あり。又家軍法の二用と。悪術の
 温妙と「やうり」たる。源を十日は曉天と起し。菊花は今日を
 けい。いふ「行希」の系あり。菊花は飾りあり。別捨て。一本は「いりて」
 呼し。乞て「花壇」は例より。人心地を失へり。家族憫て「忙し」業湯を

与へ蕨らひとて大姫うけしむるに人遣條の今日と迫りける
 藉は及ぶる我は恨ある若の不和と是へありさればとて心は
 不はは先城中より事の中と併へはあり今日親境に具
 るべき物はと西園寺に足はる龍興其怒りとはは兼日菊を
 見せし事内「花は」とて海へきや凡雨の夜支那の福行何ん
 計に嚴重に人を付守らせは付そけ難みえきや早免汝が麻
 呂より起さる付れ西園寺ありて休が家に新べきを以て来日通
 りぬるゆゑと其日の入来止むにたり小巻背中より汗と流退
 家に入り門戸を閉て居りたる本下の其日より二人の若は教行
 とろくませさる小巻が家れ愛の神本次左衛門が為なり神本と小
 巻は二幅對の英勇と呼ばるる毎度戰場は徳心ぬ又源を先と
 証はとては屋敷も源を在堂遇せらるにたり彼が三男と坊
 ぐんと悲ひを入て菊蘭を擡擡紙皮をえせん巧なりとはは
 中には儀は一大形はつらむい方大怒は應どるならひとて惟
 一扱は私言合すると斯て十日計在て後龍興懐り徳はぬりし
 小巻が閉門の家さし「かゝる尚同通りの免されどりより小巻は水
 邊より勇士とつた其性むく驟しく閉門のるも懐り胸は源の狼
 藉若を交出とて徹壁はして眼を眩さんと思ふおろし區の託を
 と傳く怒る天を衝直は次左衛門が家より去る圓以て事内
 神本が節風を以より引籠めて居りしが親き友とて長發な
 りと出いよとて言語しまはるる源を叫ぶと一夜「怒る額は切
 思ひよりざる不煮るんが既より骨の上を斬退よりけい狼藉
 向は方く汝が狼藉是より奪うけて切倒し惜むは是は方なる
 士刀も合せ討しは中まゝなりたるゆゑ家内の騒動は
 次左衛門が女房長刀を提げわるを源を飛遠へて同じに切
 伏るぬるの子は神本孫を即日に即三郎等しくけ出給と給て

中にて儀は一大形はつらむい方大怒は應どるならひとて惟
 一扱は私言合すると斯て十日計在て後龍興懐り徳はぬりし
 小巻が閉門の家さし「かゝる尚同通りの免されどりより小巻は水
 邊より勇士とつた其性むく驟しく閉門のるも懐り胸は源の狼
 藉若を交出とて徹壁はして眼を眩さんと思ふおろし區の託を
 と傳く怒る天を衝直は次左衛門が家より去る圓以て事内
 神本が節風を以より引籠めて居りしが親き友とて長發な
 りと出いよとて言語しまはるる源を叫ぶと一夜「怒る額は切
 思ひよりざる不煮るんが既より骨の上を斬退よりけい狼藉
 向は方く汝が狼藉是より奪うけて切倒し惜むは是は方なる
 士刀も合せ討しは中まゝなりたるゆゑ家内の騒動は
 次左衛門が女房長刀を提げわるを源を飛遠へて同じに切
 伏るぬるの子は神本孫を即日に即三郎等しくけ出給と給て

突く甲。終つひは小巻を突つとめたり。されどもあ人の源みなもとを交まじえり
 て見へたる本ほんは小巻が若衆わかしゅ三人事ことの起おこりあり。孫まごもも主人しゅじんのたふさ
 見るか。後のちは切きりぬ人のつたを斬き殺ころせば。本ほんが家来けらいも思おもひくよ
 切きりぬ。死し傷やう夥おほく。両家りやうけ同どう士し討うち候こう。本ほんの二計にけいは。故ゆゑは家来けらいの二
 勇ゆう一瞬いつしゆんは。こひたり。昔むかし陳平ちんぺいが。西せいの莫金もくきんを。楚そ國こくの軍師ぐんし范
 增しやうと除のぞきし。和漢わかん射しやを異いととる。計けい策さくのよき。後のちは。怒いかるべき
 も謀計ぼうけいなり。

